

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2013年6月24日
【事業年度】	第34期(自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)
【会社名】	株式会社山田製作所
【英訳名】	YAMADA MANUFACTURING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岸本 一也
【本店の所在の場所】	群馬県桐生市広沢町一丁目2757番地
【電話番号】	0277(54)2379
【事務連絡者氏名】	取締役事業管理本部長 鈴木 康文
【最寄りの連絡場所】	群馬県伊勢崎市香林町二丁目1296番地
【電話番号】	0270(40)9111
【事務連絡者氏名】	取締役事業管理本部長 鈴木 康文
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第30期 2009年３月	第31期 2010年３月	第32期 2011年３月	第33期 2012年３月	第34期 2013年３月
売上高(百万円)	79,403	66,462	73,907	68,628	82,319
経常利益又は経常損失() (百万円)	1,063	1,535	3,003	2,115	3,657
当期純利益又は当期純損失 ()(百万円)	2,502	944	2,745	954	2,268
包括利益(百万円)	-	-	2,197	1,108	4,518
純資産額(百万円)	10,394	12,178	14,266	15,014	19,149
総資産額(百万円)	49,661	49,974	46,242	47,161	58,214
１株当たり純資産額(円)	12,422.01	14,551.81	17,134.89	18,261.16	24,443.04
１株当たり当期純利益又は １株当たり当期純損失() (円)	3,268.32	1,234.19	3,586.51	1,251.63	3,080.49
潜在株式調整後１株当たり 当期純利益(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	19.2	22.3	28.4	29.4	30.3
自己資本利益率(%)	21.6	9.2	22.6	7.1	14.7
株価収益率(倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	5,133	6,996	9,814	4,466	6,614
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	5,047	2,383	3,751	3,507	7,324
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	1,064	4,694	5,693	880	489
現金及び現金同等物の 期末残高(百万円)	1,359	1,286	1,608	1,677	1,634
従業員数(人)	3,187 (81)	3,218 (254)	3,234 (298)	3,231 (437)	3,281 (717)

(注) １．売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

２．潜在株式調整後１株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しない為、記載しておりません。

尚、第30期については、１株当たり当期純損失であり、又、潜在株式が存在しない為、記載しておりません。

３．株価収益率は、非公開の為記載しておりません。

４．従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に外数で記載しております。

５．第33期から表示単位を千円単位から百万円単位に変更し、百万円未満については切り捨てて表示しております。従来千円単位で記載していた事項についても同様に変更しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第30期 2009年 3 月	第31期 2010年 3 月	第32期 2011年 3 月	第33期 2012年 3 月	第34期 2013年 3 月
売上高(百万円)	59,172	47,959	52,131	49,847	53,287
経常利益又は経常損失() (百万円)	1,381	717	1,959	1,789	3,143
当期純利益又は当期純損失 ()(百万円)	2,215	532	1,736	842	2,252
資本金(百万円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
発行済株式総数(千株)	765	765	765	759	720
純資産額(百万円)	11,203	12,464	13,999	14,776	17,069
総資産額(百万円)	39,571	40,167	37,779	39,070	40,481
1株当たり純資産額(円)	14,633.30	16,280.90	18,285.06	19,465.34	23,686.72
1株当たり配当額 (内 1株当たり中間配当額) (円)	50.00 (-)	100.00 (-)	200.00 (-)	200.00 (-)	200.00 (-)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失() (円)	2,893.24	696.00	2,268.56	1,105.64	3,059.49
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	28.3	31.0	37.1	37.8	42.2
自己資本利益率(%)	17.6	4.5	13.1	5.9	14.1
株価収益率(倍)	-	-	-	-	-
配当性向(%)	6.9	14.4	8.8	18.1	6.5
従業員数(人)	1,495 (74)	1,557 (99)	1,538 (107)	1,517 (178)	1,494 (195)

- (注) 1. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しない為、記載しておりません。
尚、第30期については、1株当たり当期純損失であり、又、潜在株式が存在しない為、記載しておりません。
3. 株価収益率は、非公開の為記載しておりません。
4. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に外数で記載しております。
5. 第33期から表示単位を千円単位から百万円単位に変更し、百万円未満については切り捨てて表示しております。
従来千円単位で記載していた事項についても同様に変更しております。

2【沿革】

年月	事項
1937年 1 月	東京都港区芝白金志田町にて個人経営山田製作所創立、ドリルチャック製作に従事
1946年 2 月	群馬県桐生市広沢町一丁目2905番地に工場を移転し、(有)山田製作所を設立
1958年 2 月	本田技研工業(株)の治工具、オートバイ部品の製作開始
1961年 9 月	群馬県桐生市広沢町一丁目2757番地に本社及び本社工場(現桐生事業部)を新築
1963年10月	本田技研工業(株)との業務連絡強化及び事業拡張のために鈴鹿出張所を開設
1964年11月	本田技研工業(株)との業務連絡強化及び事業拡張のために浜松出張所を開設
1966年 6 月	四輪車部門を新設し、ステアリングギヤボックス、オイルポンプアッセンブリーの生産開始
1979年12月	(有)山田製作所から組織変更し、資本金 4 千万円にて、(株)山田製作所を設立
1980年 7 月	本社に工機工場(現エンジニアリング本部)新設、技術研究所を移転
1981年10月	熊本県菊池郡旭志村(現菊池市旭志川辺)に二輪車部品工場として、熊本工場(現熊本事業部)を設立
1984年 7 月	本田技研工業株式会社からの資本参加
1984年10月	群馬県佐波郡赤堀町(現伊勢崎市香林町)にポンプ系の製品工場として香林工場(現伊勢崎事業部)を設立
1988年 2 月	本田技研工業株式会社への第三者割当増資により、同社の持株比率が20.0%(関係会社)となる
1988年 3 月	米国オハイオ州コロンバス市に子会社ヨテック インコーポレーテッド(現ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド)を設立(現連結子会社)
1994年11月	タイ国ラヨン県に合弁会社ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッドを設立(現連結子会社)
1995年 2 月	イタリアのコストゥルツィオーネ イタリアーナ アッパレッキ プレチジオーネ ソチエタ ペルアッチオーネ(C. I. A. P.)に資本参加
1995年12月	中国四川省成都市に成都天興山田車用部品有限公司を四川天興儀表廠(現成都天興儀表(集団)有限公司)と合併にて設立
1996年11月	英国ウェールズにヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッドを設立(現連結子会社)
2002年10月	成都天興山田車用部品有限公司への増資により成都天興山田車用部品有限公司を連結子会社化
2004年 3 月	中国四川省成都市に成都正田車用部品有限公司を株式会社正田製作所と安楽富経済発展有限公司との3社合併にて設立
2004年 4 月	群馬県佐波郡赤堀町(現伊勢崎市香林町)に新技術研究所棟竣工
2006年 4 月	中国四川省成都市に山田車用部品研究開発(成都)有限公司を設立
	本田技研工業株式会社への第三者割当増資により、同社の持株比率が33.4%(関係会社)となる
2011年 5 月	技術研究所棟を増築し桐生市から本社機能を移転、技術研究所棟の名称を伊勢崎本社に改称

3【事業の内容】

当社グループは、当社(山田製作所)、子会社5社及び関連会社2社により構成されており、四輪車部品、二輪車部品の機能部品の設計・開発及び製造、販売を主たる業務としております。又、当社と継続的で緊密な事業上の関係にあるその他の関係会社である本田技研工業株式会社(輸送用機器等の製造販売)は主要な取引先であります。

当社グループに於ける事業の主な内訳は、次のとおりであります。

[自動車部品事業]

- ・四輪車部品...当社が製造、販売するほか、海外は子会社ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド、ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド、成都天興山田車用部品有限公司、ヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッド、関連会社成都正田車用部品有限公司が製造、販売しております。
- ・二輪車部品...当社が製造、販売するほか、海外は子会社ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド、成都天興山田車用部品有限公司、関連会社コストゥルツィオーネ イタリアーナ アッパレッキ プレチジオーネ ソチエタ ペル アッチオーニが製造、販売しております。
- ・その他.....その他の主な内容は、汎用部品、工作機械などで、当社が製造、販売しております。

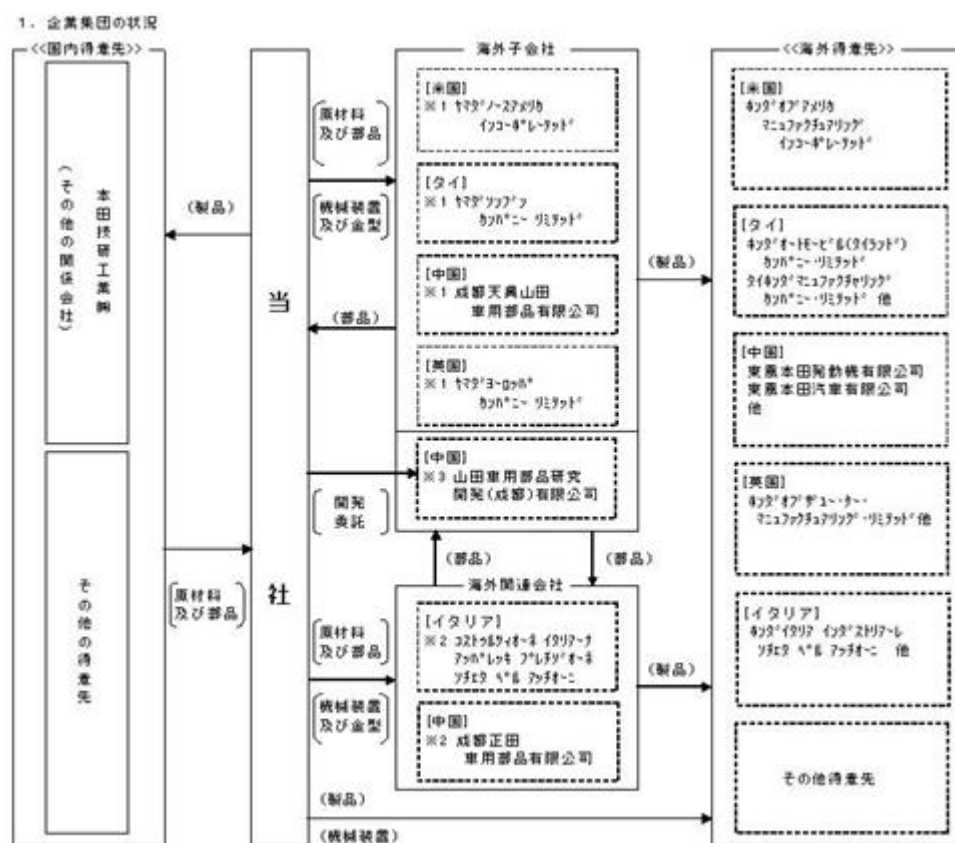
当社グループの主要な製品は以下のとおりです。

区分	主要製品
四輪車部品	オイルポンプ ウォーターポンプ ステアリングコラム オートマチックトランスミッション関連部品 ハーフシャフト&ドライブシャフト
二輪車部品	オイルポンプ ウォーターポンプ スピードメーターギヤボックス ブレーキパネル
汎用部品・その他	発電機部品 船外機部品 機械設備 金型 流量測定装置

尚、非連結子会社山田車用部品研究開発(成都)有限公司が自動車部品の研究開発を行っております。

〔事業系統図〕

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注) 連結子会社等の区分は次のとおりであります。

- 1 連結子会社
- 2 関連会社で持分法適用会社
- 3 非連結子会社で持分法非適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有又は被所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド 注1、注3	米国オハイオ州	千USD 36,000	自動車用部品事業	93.5	自動車部品を製造し、主に北米に販売している。役員の兼務あり。
ヤマダ ソンブン カンパニーリミテッド 注1	タイ国ラヨン県	千THB 150,000	自動車用部品事業	73.1	自動車部品及び二輪車部品を製造し、主にアジア地区に販売している。役員の兼務あり。
成都天興山田車用部品 有限公司 注1、注4	中国四川省	千CNY 141,905	自動車用部品事業	79.8	自動車部品及び二輪車部品を製造し、主に中国に販売している。役員の兼務あり。
ヤマダ ヨーロッパ カンパニーリミテッド 注1	英国ウェールズ	千GBP 6,000	自動車用部品事業	100.0	自動車部品を製造し、主に欧州に販売している。役員の兼務あり。
(持分法適用関連会社) コストゥルツィオーネ イタリアーナ アップレッキ プレチジオーネ ソチエタ ペル アッチ オーニ	イタリア ボローニャ市	千EUR 520	二輪車用部品事業	28.0	二輪車部品を製造し、主にイタリアに販売している。役員の兼務あり。
成都正田車用部品 有限公司	中国四川省	千CNY 16,220	自動車用部品事業	35.1	自動車部品を製造し、同製品を子会社成都天興山田車用部品有限公司に販売している。役員の兼務あり。
(その他の関係会社) 本田技研工業株式会社 注2	東京都港区	百万円 86,067	自動車等の製造販売	被所有 35.7	当社製品の販売及び原材料の仕入先。

(注) 1. 特定子会社に該当しております。

2. 有価証券報告書提出関係会社であります。

3. ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッドは、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	16,793百万円
	経常利益	202百万円
	当期純利益	114百万円
	純資産額	3,136百万円
	総資産額	10,029百万円

4. 成都天興山田車用部品有限公司は、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	13,867百万円
	経常利益	681百万円
	当期純利益	474百万円
	純資産額	4,032百万円
	総資産額	8,600百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2013年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
日 本	1,494 (195)
米 国	444 (101)
タ イ 国	586 (296)
中 国	713 (125)
英 国	44 (-)
合 計	3,281 (717)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に外数で記載しております。

2. 臨時従業員には、パートタイマー、期間従業員、嘱託契約の従業員及び派遣社員を含めております。

(2) 提出会社の状況

2013年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,494 (195)	38.0	13.1	5,245,010

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に外数で記載しております。

2. 臨時従業員には、パートタイマー、期間従業員、嘱託契約の従業員及び派遣社員を含めております。

3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

山田製作所労働組合と称し、2013年3月末日現在に於ける組合員数は1,350人であり、上部団体はJ A Mに属しております。

尚、労使関係は安定しており、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度に於ける世界経済は、欧州の長引く債務問題により、景気減速が懸念されましたが、米国の緩やかな景気回復基調が寄与し、僅かながら景気回復への動きを見せました。

日本に於いては、公共投資増加等の内需拡大策及び金融緩和策が寄与した結果、円安と株価上昇への大きな動きとなり、輸出企業を中心に業績回復基調を見せました。

一方、海外に目を向けると、米国に於いては、雇用情勢の回復に伴う個人消費の拡大等により、緩やかな景気回復基調を維持しました。タイ国に於いては、洪水影響を脱し、内需拡大により景気は拡大基調に転じました。中国に於いては、景気減速が懸念されたものの、個人消費や公共投資拡大等により、景気は緩やかな拡大を見せました。英国に於いては、個人消費が緩やかな回復を見せ、景気は僅かな回復の動きを見せました。

当社グループが関連する自動車市場は拡大が継続しております。日本に於いては、エコカー減税・補助金による需要喚起が寄与し、生産は前年を上回りました。米国に於いては、景気回復基調を受け、震災や洪水の影響を脱した日系メーカーも販売が増加しました。タイ国に於いては、自動車購入支援策による需要拡大に伴い、各メーカーの生産は大幅な増加となりました。中国に於いては、生産は概ね堅調に推移しましたが、10月以降、反日デモの影響で需要が減少し、減産が続いております。英国に於いては、生産台数・登録台数共に増加傾向にあります。

このような状況の中、当連結会計年度の業績について、連結売上高は、震災影響からの回復と円安影響及びタイ国・中国の決算月数変更等により、前年度比19.9%増の823億1千万円、利益面では、固定費の圧縮や変動費の改善等を継続して推進した結果、連結営業利益は前年度比65.3%増の35億7千万円、連結経常利益は前年度比72.9%増の36億5千万円、連結当期純利益は前年度比137.7%増の22億6千万円と増収増益になりました。

尚、国際財務報告基準（IFRS）に向け、今年度よりタイ国は決算日を12月31日から3月31日に変更した為、2012年度に限り15ヵ月決算となっております。又、中国の決算日は12月31日であります。2013年3月31日に於いて仮決算を実施した上で連結しており、2012年度に限り15ヵ月決算となっております。

所在地別セグメント状況は、次のとおりであります。

所在地別売上高(連結修正後)

[単位 百万円：未満切捨て]

	前期	当期	増減金額	増減率
日 本	49,847	53,287	3,440	6.9 %
米 国	11,555	16,793	5,237	45.3 %
タ イ 国	4,994	9,451	4,456	89.2 %
中 国	10,046	13,867	3,821	38.0 %
英 国	1,586	1,866	280	17.7 %
調 整 額	9,401	12,946	3,545	- %
合 計	68,628	82,319	13,690	19.9 %

セグメント別営業利益(連結修正後)

[単位 百万円：未満切捨て]

	前期	当期	増減金額	増減率
日 本	1,616	2,837	1,221	75.5 %
米 国	40	220	179	438.5 %
タ イ 国	233	319	86	36.8 %
中 国	322	709	387	120.1 %
英 国	19	81	62	324.5 %
調 整 額	68	591	523	- %
合 計	2,164	3,577	1,413	65.3 %

日本

主要得意先である本田技研工業株式会社の生産が震災影響から回復したことや軽自動車の販売好調に伴い、売上高は前年度比6.9%増の532億8千万円、利益面では、継続した経費削減、及び投資圧縮による固定費の削減に円安効果も加わり、営業利益は前年度比75.5%増の28億3千万円と増収増益になりました。

米国

主要得意先であるホンダオブアメリカのシビック・アコード・C R - V等の販売好調に伴う増産により、売上高は前年度比45.3%増の167億9千万円、利益面では、固定費及び経費削減効果により、営業利益は前年度比438.5%増の2億2千万円と増収増益になりました。

タイ国

主要得意先であるホンダオートモビルタイランドの新機種立上げに伴う増産により、売上高は前年度比89.2%増の94億5千万円、利益面では、継続して生産体質の強化、経費削減を進めた結果、営業利益は前年度比36.8%増の3億1千万円と増収増益になりました。

中国

主要得意先である東風本田汽車・広汽本田汽車の新機種立上げに伴う増産により、売上高は前年度比38.0%増の138億6千万円、利益面では、継続した固定費及び経費削減効果により、営業利益は前年度比120.1%増の7億円と増収増益になりました。

英国

主要得意先であるホンダオブユーケーの生産増加に伴い、売上高は前年度比17.7%増の18億6千万円、利益面では、継続して経費削減を進めた結果、営業利益は前年度比324.5%増の8千万円と増収増益になりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度に於ける連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4千万円減少し、当連結会計年度末には16億3千万円となりました。

当連結会計年度に於ける各キャッシュ・フローの状況とそれらの変化要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、66億1千万円（前年度比48.1%増）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の増加と減価償却費などによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、73億2千万円（前年度比108.8%増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、4億8千万円（前年度は8億8千万円の使用）となりました。これは主に短期借入金及び長期借入金の借入れによる収入によるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度に於ける生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日 本	44,436	105.7
米 国	15,656	142.5
タ イ 国	8,393	196.9
中 国	11,369	136.2
英 国	1,652	113.4
合 計	81,507	121.5

- (注) 1. 金額は、製造原価により表示しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度に於ける受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
日 本	41,824	95.8	3,234	82.3
米 国	17,581	152.0	2,055	174.9
タ イ 国	8,057	190.5	815	198.5
中 国	13,841	138.7	1,327	115.0
英 国	1,781	121.4	139	103.1
合 計	83,085	117.2	7,572	111.3

- (注) 1. 金額は、販売価額により表示しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度に於ける販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
日 本	42,519	102.2
米 国	16,701	145.2
タ イ 国	7,652	181.3
中 国	13,668	139.4
英 国	1,776	119.9
合 計	82,319	119.9

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
本田技研工業株式会社	33,687	49.1	32,367	39.3
ホンダ オブ アメリカ マニファクチュアリング インコーポレーテッド	7,497	10.9	11,468	13.9

3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く経営環境の見通しは、直近の円安効果により、日本国内に於いて利益を創出することができているものの、依然として続く原油価格の高騰や中国経済の成長鈍化、欧州の長引く債務問題により景気減速が懸念されており、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境下に於いて、当社グループは第9次中期（2011年4月1日～2014年3月31日）最終年度を迎えるにあたり、経営ビジョンである「社会に信頼され世界一級品を提供できる企業」の実現の為、これを支える3本の柱である経営方針「QCDトップクラスの実現」「グローバルマネジメントの実践」「次世代技術・商品の開発」を継続して強力に展開して参ります。

加えて、地球環境保全に対する積極的な取組みは勿論のこと、労働災害撲滅に向けたリスクマネジメントの強化を図り、社是である「優秀なる品質の製品を低廉なるコストにて生産し、以て社会に貢献すると共に我々の生活を繁栄させる」の具現化を目指して参ります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況に関する事項の内、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。尚、以下の記載の内将来に関する事項は、有価証券報告書提出日に於いて当社グループが判断したものであります。

1．自動車産業全体の生産動向について

当社グループが取り扱っている製品は四輪車部品、二輪車部品、汎用部品等であり、その大半を四輪自動車産業及び二輪自動車産業向けに製造・販売を行っております。日本及び世界に於ける自動車部品業界は、グローバル化・新技術導入等により各社との競争が一層激化しております。

当社グループとしては、技術革新による製品の高付加価値化を追求する一方、生産効率の向上及び経費削減等の企業努力による価格競争力の維持、強化を続けております。然しながら、モデルチェンジや消費動向など、自動車の生産台数に影響を及ぼす事象が生じた場合は当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2．本田技研工業株式会社及び同社関係会社との取引関係について

当社は、本田技研工業株式会社の関係会社であり、同社による当社議決権の直接所有割合は、35.7%となっております(2013年3月31日現在)。本田技研工業株式会社との関係は当社が自動車部品事業に本格的に取り組んで以来50年以上継続しており、今後もこの取引関係を維持・発展させていく方針であります。従って、今後の当社の事業展開に於いては、本田技研工業株式会社及びその関係会社(以下、「本田グループ」という)の経営方針や経営成績の影響を受ける可能性があります。

又、当社グループの連結売上高に占める本田グループへの販売依存度は、2013年3月期で85.9%となっております。こうした、本田グループとの依存度の高さに於いて、同グループの生産調整が行われた場合、或いは、同グループのニーズに合った製品を供給できない場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、本田グループを中心とした自動車部品の製品サプライヤーとして、本田グループからアルミ溶湯、鋼材等の原材料、バランサーシャフト、ベアリング等の当社製品の構成部品を購入しており、連結仕入高に占める本田グループからの仕入依存度は、2013年3月期で38.8%となっております。

本田グループに対する仕入依存度が高いことは、仕入リスクとしては軽減されますが、調達している原材料や部品自体に品質問題等が生じた場合、当社の生産活動に影響を及ぼす可能性があります。

3．特定サプライヤーへの依存について

当社グループは、製造に於いて使用する原材料及び部品を多数のサプライヤーから購入しておりますが、それら原材料及び部品のいくつかは特定のサプライヤーに依存しております。もし、それらのサプライヤーに不測の事態が発生した場合、又その原材料及び部品自体に品質問題や供給不足が発生した場合等で、当社の生産活動が中断される可能性があります。

当社グループが特定のサプライヤーに依存しているということは、必要な原材料及び部品が効率的かつ適正な価格で供給されない潜在的なリスクが含まれます。このような事態が顕在化すると、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

4．原材料及び原油等の市況価格変動について

当社グループは、アルミ材・鋼材等の原材料を調達しております。それらの原材料等の中には国際商品市況の影響を大きく受けるものがあり、それらの価格上昇を販売価格に十分に反映出来なかった場合は当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

又、近年に於ける新興市場での需要増加や投機マネーの流入による原油価格等の上昇は、自動車販売等、業界全体に及ぼす影響ばかりでなく、当社グループの事業活動に於けるエネルギー費・物流費及び購入部品価格の上昇により、コストを増加させる可能性があります。

5．製品の品質について

当社グループは、製品の品質問題から発生するリスクの最少化を目指すべく、品質管理基準を設けて各種製品を製造しております。然しながら、全ての製品についての問題発生を完全に排除出来るという保証はありません。仮に、製品のリコールによる賠償金の支払い、それに起因するブランドイメージの低下といった販売活動に影響を及ぼすようなことが発生した場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

6. 有利子負債依存度について

当社グループは、新製品の開発及び生産設備への投資を継続して行っておりますが、その事業活動に於ける資金調達として金融機関からの借入金に依存しております。その為、下表に記載のとおり、有利子負債依存度は高い水準であります。減少傾向にあります。

但し将来、金利が上昇した場合は支払利息の増加につながり、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

	2011年3月期 (第32期)	2012年3月期 (第33期)	2013年3月期 (第34期)
総資産額(百万円)	46,242	47,161	58,214
有利子負債額(百万円)	17,399	16,668	19,245
有利子負債依存度(%)	37.6	35.3	33.1
営業利益(百万円)	3,534	2,164	3,577
支払利息(百万円)	344	286	318
支払利息 / 営業利益比率(%)	9.8	13.2	8.89

7. 海外展開について

為替変動の影響について

当社グループは、国内市場の販売力の強化を図ると共に、北米、欧州、アジア地域の市場開拓を進めており、連結売上高に占める海外売上高比率は、48.6%(2013年3月期)となっております。これらの地域に於ける子会社の売上、費用、資産を含む現地通貨建ての項目は、連結財務諸表作成の為に円換算されております。換算時の為替レートにより、これらの項目は現地通貨に於ける価値が変わらなかったとしても、円換算後の価値が影響を受ける可能性があります。

一般に、他の通貨に対する円高(特に当社グループの売上の重要部分を占める米ドルに対する円高)は、当社グループの業績に悪影響を及ぼし、円安は当社グループの業績に好影響をもたらします。当社グループが日本で生産し、輸出する製品、半製品、部品に於いては、他の通貨に対する円高は、当社グループ製品のグローバルでの相対的な競争力を低下させ、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

地域区分	2011年3月期 (第32期)		2012年3月期 (第33期)		2013年3月期 (第34期)	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
北 米	13,597	18.4	11,816	17.2	17,013	20.7
欧 州	1,964	2.6	1,572	2.3	1,798	2.2
ア ジ ア	15,974	21.6	14,015	20.4	21,221	25.8
海外売上高合計	31,536	42.6	27,404	39.9	40,034	48.6
連結売上高合計	73,907	100.0	68,628	100.0	82,319	100.0

海外での事業展開について

当社グループの海外での生産及び販売活動は、北米・アジア及び欧州にて行っております。とりわけ国内完成車メーカーの海外生産シフト、新興市場に於ける需要増加等への対応など海外展開の重要性はより高まっております。然しながら海外拠点に於いて、地政学的なリスク等が生じた場合には、現地での事業活動が影響を受ける可能性があります。

8. 人材の確保について

当社グループの将来の成長と業績の向上を図る上で、開発・生産・販売に亘る有能な人材の確保や育成は重要なテーマと考えております。

昨今、労働市場での人材確保は比較的容易となっておりますが、有能な人材の獲得競争は激しさを増しており、こうした部門に於ける有能な人材の確保・育成ができなかった場合、当社グループの今後の事業計画の達成及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

9. 環境規制について

当社グループは地球環境の保護を重要課題として捉え、大気・水質保全やエネルギーの有効活用、有害化学物質の使用低減、廃棄物処理、リサイクルに関して、日本及び諸外国の法令と自治体等の環境規制の遵守に努めると共に自主管理基準を定め、環境保全に取り組んでおります。然しながら、今後の環境法令・規制等の変化によっては、将来に於ける当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

10. 知的所有権について

当社は、当社グループの製品に関連する特許及び商標を保有し、もしくはその権利を取得することで知的所有権の保護に努めておりますが、特定の地域ではこれらの知的所有権が違法に侵害されたり、もしくは限定的にしか保護されない可能性があり、そのような事例が発生した場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

11. 従業員に対する発明対価について

当社は、従業員の職務上の発明に対するルールや評価システムを「発明取扱規程」に於いて定めております。当社は、このルールに基づき従業員の発明の譲渡に対して適切な対価の支払いを行い、その金額は公正且つ客観的な評価に基づくものと考えております。しかし今後とも、こうした従業員の職務発明に対する報酬についての紛争を完全に排除出来るという保証はありません。そのような紛争が生じた場合、当社グループの事業活動、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

12. 機密情報について

当社グループは、事業を通じて顧客、従業員、株主又は関連する団体等の機密情報(技術情報、個人情報等)を入手する可能性があります。それら情報は、業務の効率化の観点から、多くの場合システム化・データ化により活用しております。当社グループは、このような情報の漏洩を予防する体制を構築しておりますが、不測の事態等により情報が流出してしまうことも考えられます。その結果、当社が顧客、従業員、株主又は関連団体等からの損害賠償請求を受けた場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

13. 地震や災害等について

当社グループは日本をはじめとして世界各地で生産や研究開発等の事業活動を展開しております。これらの地域に於いて地震や災害等の発生により、工場や機械設備、研究開発に関連する施設等が壊滅的な被害を受けた場合、操業は停止し、生産や出荷等に重大な支障をきたす恐れがあります。このような事態に陥った場合、当社グループの事業活動及び業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

14. ITへの依存が高まることについて

当社グループの業務のITへの依存度が高まるに伴い、ソフトウェア及びハードウェアの運用トラブル、社内データベースへの不正アクセス(当社グループの経営情報及び顧客関連情報の漏洩、改ざん、消失等)による被害が懸念されます。

当社グループは、これらのリスクに対して、基幹業務システムのバックアップ体制の構築、パスワード管理の導入、アクセス権限の徹底に加えて、コンピューターウイルスの予防対策等を行っておりますが、このような問題を完全に回避出来ない可能性があります。もし、これらの問題が発生した場合には、当社グループの業務運営、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは、「社会に信頼され世界一級品を提供できる企業」を経営ビジョンに、お客様に満足していただける商品を提供すべく、材料研究を始めとする基礎研究及びそれらを基盤とするコア技術、更に将来を見据えた先端技術開発を積極的に推進しています。特に、温室効果ガス削減に貢献できる燃費向上を目的に、総合的な効率アップ、軽量化及び電子制御技術の開発を重点的に取り組んでおります。

当社の技術範囲は、エンジン潤滑及び冷却系機器、トランスミッション制御部品、操舵システム及び駆動系部品など多岐にわたります。

当連結会計年度に於ける研究開発費は、21億円であります。

尚、研究開発活動は日本でのみ行っている為、セグメント別の研究開発費は記載しておりません。

研究開発活動の主要な成果は、次の通りであります。

(1) オイルポンプ

オイルポンプでは、ハイブリッドエンジン向けに、燃費向上技術として2段リリーフバルブを採用したポンプを、又、ハイブリッド車のトランスミッション向けに、油圧制御バルブ一体型のポンプを開発しました。今後も将来の市場ニーズに応える為、更なる燃費向上を目指した新技術開発を進めて参ります。

(2) ウォーターポンプ

ウォーターポンプでは、新型軽自動車向けに軽量化を目的に樹脂プーリーを採用したポンプを開発しました。又、更なる燃費向上を目的として、より高度な冷却制御を可能とする電子制御ウォーターポンプについて、得意先と連携した開発を鋭意推進中であります。

(3) ステアリングコラム

ステアリングコラムでは、新型車向けに徹底したコンパクト化により、低価格・軽量化で競争力を向上させた商品を開発しました。今後も競争力のある製品を提供する為、更なる廉価・軽量・コンパクト化をキーワードとした新機構・新技術開発も併せて推進して参ります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在に於いて当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国に於いて一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この連結財務諸表は、以下の重要な会計方針に則って作成されております。

重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。尚、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部に於ける為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

賞与引当金

当社は、従業員に対する賞与の支給に備える為、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

当社は、役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度に於ける支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金(前払年金費用)

従業員の退職給付に備える為、当連結会計年度末に於ける退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

当社は、役員及び執行役員の退職により支給する退職慰労金に充当する為、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の業績は、震災影響からの回復と円安影響及びタイ国・中国の決算月数変更等により、売上高は前年度比136億9千万円増、同19.9%増の823億1千万円と増収になりました。利益面では、固定費の圧縮や変動費の改善等を継続して推進した結果、営業利益は前年度比14億1千万円増、同65.3%増の35億7千万円、経常利益は、前年度比15億4千万円増、同72.9%増の36億5千万円、当期純利益は前年度比13億1千万円増、同137.7%増の22億6千万円と増益になりました。

(3) 経営戦略の現状と見通し

当該内容については「第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載しております。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当該内容については「第2 事業の状況 1 業績等の概要」に記載しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、生産設備を中心に設備投資を行いました。

当社グループとして投資の圧縮に努めましたが、当社で33億4千万円、連結子会社全体で78億円となり、グループ全体として111億4千万円の設備投資となりました。その主なものは、新機種立上り対応、並びに能力拡充等を目的とした投資、及び英国を除く海外3拠点の工場増築と桐生本社工場のリスク対応投資であります。

又、必要資金は自己資金及び借入金にて充当しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループに於ける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2013年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の部門	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計
本社工場 (群馬県桐生市)	四輪車部品 二輪車部品 汎用部品	生産設備	583	1,537	557 (36,184)	-	338	3,016 324 (65)
エンジニアリング本部 (群馬県桐生市)	試作品 補修部品 生産用設備	試験及び 測定器	43	144	- (-)	1	38	228 149 (11)
伊勢崎本社 (群馬県伊勢崎市)	管理業務	管理施設	686	2	257 (17,242)	36	44	1,028 144 (5)
開発本部 (群馬県伊勢崎市)	研究開発 管理・営業	研究開発設備 管理施設	876	169	266 (16,487)	1	107	1,422 176 (13)
伊勢崎事業部 (群馬県伊勢崎市)	四輪車部品 二輪車部品 汎用部品	生産設備	1,911	2,712	616 (45,631)	-	297	5,537 494 (89)
熊本事業部 (熊本県菊池市)	四輪車部品 二輪車部品 汎用部品	生産設備	352	452	131 (34,316)	-	73	1,010 207 (12)

- (注) 1. 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含まれておりません。
尚、金額には消費税等を含んでおりません。
2. エンジニアリング本部は、本社工場と同一敷地内にある為、その敷地面積及び土地に対する投資資本額は桐生事業部に含めて表示しております。
3. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に外数で記載しております。

(2) 在外子会社

2013年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の部門	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
ヤマダ ノースアメリカイ ンコーポレーテッド (米国オハイオ州)	四輪車部品	生産設備	1,499	2,577	20 (202,344)	388	4,485	444 (101)
ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド (タイ国ラヨーン県)	四輪車部品 二輪車部品	生産設備	525	1,034	261 (55,776)	917	2,738	586 (296)
成都天興山田車用部品 有限公司 (中国四川省)	四輪車部品 二輪車部品	生産設備	930	2,586	- (-)	28	3,546	713 (125)
ヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッド (英国ウェールズ)	四輪車部品	生産設備	126	55	65 (37,555)	44	290	44 (-)

- (注) 1. 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含まれておりません。
2. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に外数で記載しております。
3. 山田車用部品研究開発(正都)有限公司については、非連結子会社の為記載しておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、業界動向、受注予測、生産計画、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は、連結会社各社と調整を図っております。

(1) 重要な設備の新設

提出会社

事業所名 (所在地)	事業の部門	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
			総額 (億円)	既支払額 (億円)		着手	完了
本社工場 (群馬県桐生市)	四輪車部品 二輪車部品 汎用部品	工場改築及び 生産設備	29	－	自己資金及び 借入金	2013年 1 月	2014年11月

(注) 上記の投資内容につきましては、生産性の向上及びコスト削減を目的として計画しています。

在外子会社

事業所名 (所在地)	事業の部門	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
			総額 (億円)	既支払額 (億円)		着手	完了
ヤマダノースアメリカ インコーポレーテッド (米国オハイオ州)	四輪車部品	製造設備	16	-	自己資金及び 借入金	2013年 4 月	2014年 3 月
ヤマダソンブン カンパニーリミテッド (タイ国ラヨーン県)	四輪車部品 二輪車部品	製造設備	6	-	自己資金及び 借入金	2013年 4 月	2014年 3 月

(注) 上記の投資内容につきましては、生産性の向上及びコスト削減を目的として計画しています。

(2) 重要な設備の除却等

提出会社

当連結会計年度末に於いて、重要な設備の除却等の計画はありません。

在外子会社

当連結会計年度末に於いて、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000
計	2,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (2013年3月31日)	提出日現在発行数 (2013年6月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式(株)	720,652	720,652	非上場	単元株式数 100株 (注)1, 2
計	720,652	720,652	-	-

(注) 1. 当社の株式の譲渡又は取得については、株主又は取締役会の承認を要する旨定款に定めております。

2. 当会社は、相続その他の一般承継により当会社の株式を取得した者に対し、当該株式を当会社に売り渡すことを請求することができる旨定款に定めております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金 残高(百万円)
2012年3月26日 (注)	6,474	759,126	-	2,000	-	952
2013年3月1日 (注)	38,474	720,652	-	2,000	-	952

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

2013年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	10	-	83	-	-	72	165	-
所有株式数(単元)	-	956	-	3,793	-	-	2,424	7,173	3,352
所有株式数の割合(%)	-	13.33	-	52.88	-	-	33.79	100	-

(7) 【大株主の状況】

2013年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
本田技研工業株式会社	東京都港区南青山2-1-1	255,800	35.50
山田 博子	群馬県桐生市	62,345	8.65
山田 進	群馬県桐生市	31,150	4.32
山田 正彦	群馬県桐生市	22,850	3.17
株式会社群馬銀行	群馬県前橋市元総社町194	20,000	2.78
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	20,000	2.78
山田 俊行	群馬県桐生市	19,512	2.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	18,000	2.50
山田 耕治	群馬県桐生市	14,861	2.06
細井 道子	埼玉県南埼玉郡	10,601	1.47
松原 多津江	神奈川県川崎市	10,601	1.47
計	-	485,720	67.41

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2013年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 717,300	7,173	-
単元未満株式	普通株式 3,352	-	-
発行済株式総数	720,652	-	-
総株主の議決権	-	7,173	-

【自己株式等】

2013年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(2012年6月22日)での決議の状況 (取得期間 2012年6月23日～2013年6月22日)	40,000	188,000,000
当事業年度前に於ける取得自己株式	-	-
当事業年度に於ける取得自己株式	38,400	180,480,000
残存授權株式の総数及び価額の総額	1,600	7,520,000
当事業年度末の末日現在の未行使割合(%)	4.0	4.0
当期間に於ける取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	4.0	4.0

(注) 当期間に於ける自己株式の取得はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度に於ける取得自己株式	74	347,800
当期間に於ける取得自己株式	-	-

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	38,474	180,827,800	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	-	-	-	-

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な課題のひとつと認識し、将来の事業展開と財務体質の強化に必要な内部留保を確保しつつ、安定配当を行うことを基本方針としております。

また、剰余金の配当として年1回の期末配当を実施することが、当社の利益状況、経営計画に最適と考えており、決定機関は株主総会としております。なお当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針及び当期の業績を勘案し、1株当たり200円の配当を実施することを決定しました。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2013年6月21日 定時株主総会決議	144	200

4【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
代表取締役 社長		岸本 一也	1957年7月28日生	1981年10月 当社入社 2005年 4 月 同 執行役員 2005年 6 月 成都天興山田車用部品有限公司 董事總經理 2007年 6 月 当社 取締役 2010年 4 月 同 生産本部 桐生事業部長 2012年 6 月 同 代表取締役社長(現任) 成都天興山田車用部品有限公司 董事長(現任)	(注) 2	25
専務取締役	開発本部長	大谷 忠司	1953年 5 月18日生	1981年 1 月 本田技研工業株式会社入社 2006年 4 月 株式会社本田技術研究所栃木研究 所 主任研究員 2008年 4 月 当社入社 社長付 2008年 6 月 同 執行役員 開発本部副本部長 2009年 6 月 同 取締役 開発本部長(現任) 2010年 6 月 同 常務取締役 山田車用部品研究開発(成都)有限 公司董事長(現任) 2013年 6 月 同 専務取締役(現任)	(注) 2	10
常務取締役	営業購買 本部長	山田 進	1960年11月30日生	1984年 2 月 当社入社 2000年 5 月 ヤマダ ヨーロッパ カンパニーリ ミテッド代表取締役社長 2000年 6 月 当社 取締役 2008年 6 月 ヤマダ ノースアメリカ インコー ポレーテッド代表取締役社長 2010年 6 月 当社 購買本部長 2011年 4 月 同 営業本部副本部長 2011年 6 月 同 常務取締役(現任) 2013年 4 月 同 営業購買本部長(現任)	(注) 2	311
取締役	品質保証 本部長	馬場 久	1951年12月19日生	1972年 9 月 当社入社 1997年 4 月 ヤマダ ヨーロッパ カンパニーリ ミテッド代表取締役社長 2007年 4 月 当社 執行役員 品質保証本部品質 保証部長 2007年 6 月 同 取締役(現任) 同 品質保証本部長(現任)	(注) 2	10
取締役	事業管理 本部長 コンプライア ンスオフィ サー リスクマネジ メントオフィ サー	鈴木 康文	1953年 9 月 2 日生	1977年 4 月 株式会社群馬銀行入行 2002年 3 月 同 高崎西支店長 2008年 6 月 当社入社 同 執行役員 同 事業管理本部経理部長(現任) 2009年 6 月 同 取締役(現任) 2010年10月 同 事業管理本部副本部長 2012年10月 同 事業管理本部長(現任) 2013年 4 月 同 コンプライアンスオフィサー (現任) 同 リスクマネジメントオフィ サー(現任)	(注) 2	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役	事業管理本部 副本部長	谷中 弘	1955年 1 月26日生	1973年 4 月 本田技研工業株式会社入社 2004年 4 月 同 栃木製作所 事業管理部長 2008年 4 月 当社入社 社長付 2008年 6 月 同 取締役(現任) 同 生産本部長 2011年 4 月 同 購買本部長 2012年 3 月 同 生産本部副本部長 2013年 4 月 同 事業管理本部副本部長(現任)	(注) 2	10
取締役	開発本部 技術評価室長	音羽 卓	1952年12月17日生	1979年 4 月 本田技研工業株式会社入社 2005年 4 月 ホンダエンジニアリング株式会社 品質技術部長 2008年 4 月 当社入社 社長付 2008年 6 月 同 執行役員 同 エンジニアリング本部副本部長 2009年 6 月 同 取締役(現任) 同 エンジニアリング本部長 2011年 4 月 同 開発本部技術評価室長(現任)	(注) 2	10
取締役		天野 勝	1956年 8 月26日生	1981年12月 当社入社 2007年 4 月 同 執行役員 同 開発本部技術研究所長 2011年 4 月 同 エンジニアリング本部長 2012年 4 月 成都天興山田車用品有限公司 董時總經理(現任) 2013年 6 月 当社 取締役(現任)	(注) 2	10
取締役	生産本部長	森本 祐樹	1958年 7 月 5 日生	1983年 4 月 本田技研工業株式会社入社 2006年 4 月 同 埼玉製作所 エンジン工場長 2010年 4 月 広汽本田汽車有限公司 副總經理 2013年 4 月 当社入社 同 執行役員 同 生産本部長(現任) 2013年 6 月 同 取締役(現任)	(注) 2	-
常勤監査役		高瀬 史行	1953年 3 月 6 日生	1971年 3 月 当社入社 2000年 4 月 同 総務部長 2006年 4 月 同 執行役員 ヤマダ ヨーロッパ カンパニーリ ミテッド代表取締役社長 2009年11月 当社 監査室長 2011年 6 月 同 常勤監査役(現任)	(注) 3	7
監査役		瀧口 修司	1951年 3 月23日生	1969年 3 月 当社入社 2000年 6 月 同 執行役員 購買部長 2002年 4 月 同 購買本部長 2002年 6 月 同 取締役 2007年 6 月 同 常勤監査役 2011年 6 月 同 非常勤監査役(現任)	(注) 3	9

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
監査役		鈴木 英二	1954年10月2日生	1973年4月 本田技研工業株式会社入社 1999年4月 同 生産本部埼玉製作所 溶接第2モジュール課長 2003年9月 東風本田汽車有限公司 研究開発部 副部長 2009年8月 本田技研工業株式会社 埼玉製作所事業管理部 機種推進ブロック技師 2011年4月 同 業務監査室 技師(現任) 2011年6月 当社 非常勤監査役(現任)	(注)3	-
計						407

(注)1. 監査役 鈴木 英二は、社外監査役であります。

(注)2. 2013年6月21日選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。

(注)3. 2011年6月17日選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。

(注)4. 当社では、意思決定・監督と執行の効率化を図る為、執行役員、地域執行役員制度を導入しております。
 執行役員は6名で、伊勢崎事業部長 中村 光男、営業購買本部副本部長 斉藤 祐次、エンジニアリング本部長 星野 光男、開発本部車体R&Dセンター長 光永 亮、購買部長 佐藤 昭夫、開発本部副本部長 石井 和夫で構成されております。
 また、地域執行役員は5名で、ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド代表取締役社長 佐藤 賢、ヤマダ ヨーロッパ カンパニーリミテッド代表取締役社長 漆原 正弘、ヤマダ ソンブン カンパニーリミテッド代表取締役社長 永田 勇助、熊本事業部長 島田 雅夫、桐生事業部長 小林 正で構成されております。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主の皆様をはじめとした「社会から信頼される企業」となる為に、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題の一つと認識し、取り組んでおります。この考えに基づき、事業を展開するにあたっては、経営の効率性を高めると共に、コンプライアンスやリスクマネジメントの強化に取り組んでおります。

2) 会社の機関の内容及び内部統制システム整備の状況

取締役会

取締役会は、取締役9名で構成され、毎月開催される取締役会に於いて重要な業務執行・法定事項の決定及び業務執行状況の監督を行っております。又、必要に応じて臨時取締役会を開催し、機動的に経営の意思決定を行っております。

経営会議

経営会議は、社長、本部長及び取締役によって構成され、経営会議 部に於いては全社に係わる課題・問題点の対応策を検討・決定すると共に、重要情報を相互に提供し情報の共有を図っております。経営会議 部に於いては「職務権限基準」に則り、投資案件の検討・承認を行っております。

B I M (ビジネス インフォメーション ミーティング)

B I Mは、取締役、執行役員、本部長、地域執行役員、海外拠点長の全員をもって構成し、経営レベルでの意見交換・事業報告を行い情報を共有化すると共に、グループ全体の問題点・課題について協議し、戦略の意思統一と総合的な効率の向上を図っております。

執行役員

取締役会に於ける経営の意思決定・業務執行の監督機能と業務執行機能を区分し、権限と責任の明確化と、業務執行の迅速化を実現する為、執行役員制度を導入しております。

執行役員会議

執行役員会議は、取締役、執行役員、地域執行役員の全員をもって構成され、執行役員間の情報交換・連絡・調整を円滑に図ることを目的に、原則として月1回の執行役員会議を開催し業務執行状況の報告を行い、情報の共有化を図っております。

内部監査及び監査役監査の状況

現在、監査役3名(社外監査役1名)が選任され、各監査役は、監査の方針、職務分担等に従い、取締役会をはじめとした重要な会議に出席する他、当社及び重要な子会社の業務及び財産の状況の調査等を通じ、取締役の職務執行の監査を行っております。

又、各部門の業務運営が会社方針、経営計画、諸規程に従い効率的で適正に遂行させる為、社長直属の組織として監査室(専任2名)を設置し、内部監査を実施しております。監査結果については社長へ報告し、監査指摘事項に提示された内容についてフォローアップすると共に適正な最善措置並びに改善施策を助言しております。

監査にあたっては、監査役と監査室との緊密な連携及び会計監査人との意見交換・情報交換を行い、監査の実効性及び効率性の向上を目指しております。

尚、社外監査役と当社の間には、特別な利害関係はありません。

会計監査の状況

当社は、会社法に基づく会計監査及び金融商品取引法に基づく会計監査について、監査契約を締結している新日本有限責任監査法人が監査を実施しております。同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はありません。

当事業年度に於いて、当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名等は以下のとおりであります。

公認会計士等の氏名		所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員	山本 禎良	新日本有限責任監査法人
	海野 隆善	

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

尚、当社の会計監査業務に係る補助者の構成は、以下のとおりであります。

・公認会計士 5名 ・その他 3名

コンプライアンス体制

コンプライアンスに関する取組みを推進する担当取締役として、コンプライアンスオフィサーを任命すると共に、以下の施策を実施しております。

<YAMADA行動規範>

コンプライアンスの基本方針として、社員一人ひとりが日頃から実践すべき行動を具体的に定めた「YAMADA行動規範」を整備し、社員全員への浸透を図っております。

<YAMADA相談窓口>

企業倫理やコンプライアンスに関する問題を受付けるホットラインとして「YAMADA相談窓口」を設置し問題の顕在化を図り、相談に対する事実調査を行ったうえ適切な対応を行っております。相談は、実名・匿名の両方で受付け、相談者に対する不利益な取扱いがないよう保護を図りながら実名での提案を推奨しております。

<コンプライアンス委員会>

コンプライアンスオフィサーを委員長とした「コンプライアンス委員会」に於いて、企業倫理やコンプライアンスに関する重要案件を審議しております。

リスク管理体制

当社は、リスク管理に関する取組みを経営上の重要な課題として位置付け、推進する担当取締役をリスクマネジメントオフィサーに任命すると共に、リスクマネジメントオフィサーを委員長とする「リスクマネジメント委員会」の設置、危機発生時に迅速且つ的確な対応を行う為「危機対応規程」を制定し、リスク管理体制の整備を進めております。又、当社の経営に重大な影響を及ぼすリスクを認識し、リスクを最小限にする為、各部門で対応すべきリスクをチェックリストに基づき定期的に自己検証し、予防に努めています。

3) 役員報酬等の内容

当期の取締役及び監査役に対する報酬額の内容は、以下のとおりであります。

・取締役の報酬 11名 257百万円

・監査役の報酬 3名 18百万円

(うち社外監査役1名 2百万円)

(注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 取締役の報酬限度額は、1996年1月29日開催の第16回定時株主総会に於いて月額30百万円以内(但し、使用人分給与は含まない。)と決議頂いております。

3. 監査役の報酬限度額は、1996年1月29日開催の第16回定時株主総会に於いて月額4百万円以内と決議頂いております。

4. 2013年6月21日開催の第34回定時株主総会に於いて決議された下記の役員賞与は、上記支給額に含んでおります。

取締役 10名 39百万円

監査役 3名 80万円

5. 2013年6月21日開催の第34回定時株主総会決議に基づく、退任した役員に対する下記の役員退職慰労金の内、当該事業年度に係る退職慰労引当金は、上記支給額に含んでおります。

取締役 3名 97百万円

6. 2012年6月22日開催の第33回定時株主総会決議に基づき、退任した役員に対する役員退職慰労金を下記のとおり支給致しました。

退任取締役 1名 36百万円

4) 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

5) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

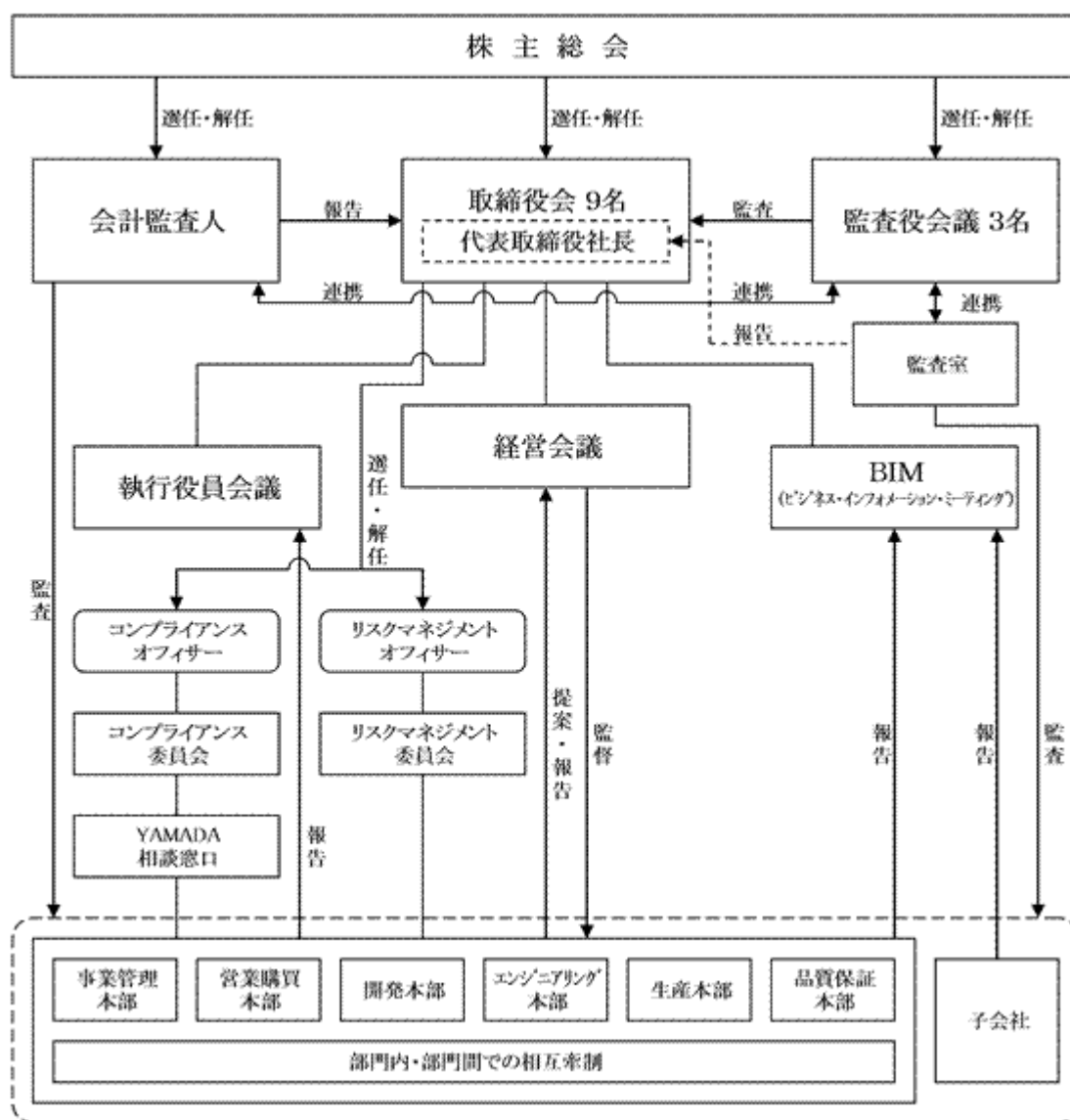
6) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会に於ける特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

7) 中間配当

当社は株主へ、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

8) 当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要図は次のとおりであります。



(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	16	2	17	9
連結子会社	-	-	-	-
計	16	2	17	9

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社連結子会社であるヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッドは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているアーンスト・アンド・ヤングに対して監査報酬等を支払っており、前連結会計年度に係る監査報酬契約額は、2 百万円であります。

(当連結会計年度)

当社連結子会社であるヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッドは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているアーンスト・アンド・ヤングに対して監査報酬等を支払っており、当連結会計年度に係る監査報酬契約額は、3 百万円であります。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準（IFRS）への移行等に係る助言業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準（IFRS）への移行等に係る助言業務であります。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査法人に対する報酬額の決定は、当社の規模・業務特性等を勘案し設定した監査日数等に基づき、監査役の同意を得て、経営会議に於いて承認しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2012年4月1日から2013年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2012年4月1日から2013年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (2013年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 2,266	1 2,223
受取手形及び売掛金	9,148	10,193
製品	2,562	3,321
仕掛品	1,462	1,493
原材料及び貯蔵品	3,207	4,392
繰延税金資産	703	999
その他	712	1,112
流動資産合計	20,064	23,737
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,899	16,577
減価償却累計額	8,282	9,041
建物及び構築物（純額）	1 6,616	1 7,535
機械装置及び運搬具	43,980	49,335
減価償却累計額	34,914	38,935
機械装置及び運搬具（純額）	1 9,065	1 10,400
工具、器具及び備品	12,212	14,054
減価償却累計額	10,930	11,795
工具、器具及び備品（純額）	1,281	2,258
土地	1 2,107	1 2,176
リース資産	32	62
減価償却累計額	14	23
リース資産（純額）	17	39
建設仮勘定	2,238	5,468
有形固定資産合計	21,327	27,879
無形固定資産		
ソフトウェア	122	155
その他	47	134
無形固定資産合計	169	289
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 2 4,255	1, 2 4,765
繰延税金資産	164	207
その他	2 1,180	2 1,334
投資その他の資産合計	5,600	6,307
固定資産合計	27,097	34,476
資産合計	47,161	58,214

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (2013年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,661	10,109
短期借入金	¹ 10,994	¹ 14,772
1年内償還予定の社債	1,000	-
未払金	1,364	3,081
リース債務	6	13
未払法人税等	541	1,200
未払消費税等	184	38
賞与引当金	893	982
役員賞与引当金	43	39
設備関係支払手形	147	1,324
その他	862	1,191
流動負債合計	25,699	32,753
固定負債		
長期借入金	¹ 4,654	¹ 4,431
リース債務	12	28
繰延税金負債	1,536	1,610
役員退職慰労引当金	204	204
資産除去債務	13	13
その他	27	22
固定負債合計	6,447	6,311
負債合計	32,146	39,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	953	953
利益剰余金	10,550	12,485
自己株式	-	-
株主資本合計	13,504	15,439
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	2,094	2,467
為替換算調整勘定	1,736	292
その他の包括利益累計額合計	358	2,175
少数株主持分	1,151	1,534
純資産合計	15,014	19,149
負債純資産合計	47,161	58,214

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
売上高	68,628	82,319
売上原価	6 58,725	6 69,605
売上総利益	9,903	12,713
販売費及び一般管理費	1, 2 7,738	1, 2 9,135
営業利益	2,164	3,577
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	77	94
補償収益	10	-
為替差益	-	347
持分法による投資利益	13	-
雇用調整助成金	59	-
その他	92	75
営業外収益合計	256	519
営業外費用		
支払利息	286	318
補償費用	7	46
為替差損	1	-
持分法による投資損失	-	65
その他	9	10
営業外費用合計	305	440
経常利益	2,115	3,657
特別利益		
固定資産売却益	3 98	3 40
補助金収入	-	77
特別利益合計	98	118
特別損失		
固定資産売却損	4 2	4 22
固定資産廃棄損	5 33	5 112
投資有価証券評価損	1	-
補償損失	149	-
減損損失	7 0	7 3
その他	-	16
特別損失合計	186	154
税金等調整前当期純利益	2,026	3,621
法人税、住民税及び事業税	664	1,649
過年度法人税等	349	-
法人税等調整額	16	419
法人税等合計	997	1,229
少数株主損益調整前当期純利益	1,029	2,392
少数株主利益	75	123
当期純利益	954	2,268

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,029	2,392
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	186	373
為替換算調整勘定	97	1,725
持分法適用会社に対する持分相当額	9	27
その他の包括利益合計	79	2,126
包括利益	1,108	4,518
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	995	4,085
少数株主に係る包括利益	112	433

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,000	2,000
当期末残高	2,000	2,000
資本剰余金		
当期首残高	953	953
当期末残高	953	953
利益剰余金		
当期首残高	9,847	10,550
当期変動額		
剰余金の配当	153	151
当期純利益	954	2,268
自己株式の消却	98	180
当期変動額合計	702	1,935
当期末残高	10,550	12,485
自己株式		
当期首残高	-	-
当期変動額		
自己株式の取得	98	180
自己株式の消却	98	180
当期変動額合計	-	-
当期末残高	-	-
株主資本合計		
当期首残高	12,801	13,504
当期変動額		
剰余金の配当	153	151
当期純利益	954	2,268
自己株式の取得	98	180
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	702	1,935
当期末残高	13,504	15,439

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,908	2,094
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	186	373
当期変動額合計	186	373
当期末残高	2,094	2,467
為替換算調整勘定		
当期首残高	1,591	1,736
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	144	1,443
当期変動額合計	144	1,443
当期末残高	1,736	292
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	316	358
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	41	1,816
当期変動額合計	41	1,816
当期末残高	358	2,175
少数株主持分		
当期首残高	1,148	1,151
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	382
当期変動額合計	3	382
当期末残高	1,151	1,534
純資産合計		
当期首残高	14,266	15,014
当期変動額		
剰余金の配当	153	151
当期純利益	954	2,268
自己株式の取得	98	180
自己株式の消却	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	45	2,199
当期変動額合計	747	4,135
当期末残高	15,014	19,149

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,026	3,621
減価償却費	4,729	4,741
減損損失	0	3
のれん償却額	3	-
賞与引当金の増減額（ は減少）	11	88
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	6	3
退職給付引当金の増減額（ は減少）	73	57
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	29	0
受取利息及び受取配当金	80	97
支払利息及び社債利息	293	326
為替差損益（ は益）	0	-
持分法による投資損益（ は益）	13	65
固定資産除売却損益（ は益）	63	93
投資有価証券評価損益（ は益）	1	-
売上債権の増減額（ は増加）	2,286	258
たな卸資産の増減額（ は増加）	127	964
仕入債務の増減額（ は減少）	534	408
未払消費税等の増減額（ は減少）	20	121
その他の資産の増減額（ は増加）	240	35
その他の負債の増減額（ は減少）	218	842
小計	5,224	7,837
利息及び配当金の受取額	86	103
利息の支払額	287	330
法人税等の支払額	271	995
過年度法人税等の支払額	342	-
法人税等の還付額	56	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,466	6,614
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	789	589
定期預金の払戻による収入	789	589
有形固定資産の取得による支出	3,613	7,369
有形固定資産の売却による収入	175	207
無形固定資産の取得による支出	55	151
投資有価証券の取得による支出	14	15
その他投資の増減額（ は増加）	0	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,507	7,324

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	1,444	2,090
長期借入れによる収入	2,274	2,790
長期借入金の返済による支出	4,311	2,990
社債の償還による支出	-	1,000
自己株式の取得による支出	98	180
配当金の支払額	34	50
少数株主への配当金の支払額	153	151
リース債務の返済による支出	2	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	880	489
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	177
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	69	43
現金及び現金同等物の期首残高	1,608	1,677
現金及び現金同等物の期末残高	1,677	1,634

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 4社

連結子会社の名称

- ・ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド
- ・ヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッド
- ・ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド
- ・成都天興山田車用品有限公司

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社

- ・山田車用品研究開発(成都)有限公司

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていない為であります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 2社

会社名

- ・コストゥルツィオーネ イタリアーナ アッパレッキ プレチジオーネ ソチエタ ペル アッチオーニ (C. I. A. P.)
- ・成都正田車用品有限公司

(2) 持分法を適用していない非連結子会社(山田車用品研究開発(成都)有限公司)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、且つ、全体としても重要性がない為、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社、ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッドについて、当連結会計年度より決算日を従来の12月31日から3月31日に変更しております。又、連結子会社、成都天興山田車用品有限公司の決算日は12月31日ですが、連結財務情報のより適正な開示を図る為、連結決算日に於いて仮決算を実施した上で連結しております。これらの変更により、上記2社に於ける当連結会計年度の貸借対照表は2013年3月31日となり、損益計算書、キャッシュフロー計算書は2012年1月1日から2013年3月31日までの15ヵ月間の決算となります。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

其他有価証券

(イ) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

主として、移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によって評価しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法によっております。

尚、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 4～9年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

尚、自社利用のソフトウェアについては、社内に於ける利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備える為、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

賞与引当金

当社は、従業員に対する賞与の支給に備える為、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

当社は、役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度に於ける支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金(前払年金費用)

従業員の退職給付に備える為、当連結会計年度の末日に於ける退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

尚、当連結会計年度末に於いては、前払年金費用(727百万円)を投資その他の資産のその他に含めております。

会計基準変更時差異(952百万円)については、15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしています。

役員退職慰労引当金

当社は、役員及び執行役員の退職により支給する退職慰労金に充当する為、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。尚、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部に於ける為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。又、為替予約については、振当処理の要件を充たしている場合は振当処理を、金利スワップについては、特例処理の要件を充たしている場合は特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...製品輸出等による外貨建売上債権

b. ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金

ヘッジ方針

外貨建取引に対する為替リスクをヘッジする手段として為替予約取引を行うものとし、借入金の金利変動リスクをヘッジする手段として、金利スワップ取引を行うこととしております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てており、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されている為、決算日に於ける有効性の評価を省略しております。

特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書に於ける資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、且つ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

当連結会計年度
(自 2012年 4 月 1 日
至 2013年 3 月31日)

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社は、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、従来は主として定率法によっておりましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

従来、当社では新機種の立ち上がり時に受注が多く、年数の経過と共に受注減少となる傾向がありましたが、主要な顧客に於いて経済状況の変化に対応したグローバル展開や製品・部品の共有化が進み、中型車を中心とした特定車種向け製品の売れ行きに左右された過去に比べ、今後は小型車向け製品を中心に安定的になる傾向が益々強まる見込みであります。このような需要変化のなか、当社では需要の変化に柔軟に対応した生産体制の整備を行うべく、設備投資を行っております。需要変化に伴う設備投資を契機に、有形固定資産の内容及び使用状況等を検討した結果、有形固定資産は今後、収益に対して安定的に貢献する見通しであります。従って、耐用年数にわたり均等償却により費用配分を行うことが有形固定資産の実態をより適切に反映できるものと判断し、従来の償却方法を見直し、定額法を採用することに致しました。

この変更に伴い、従来の方法と比較して、当連結会計年度の減価償却費が83百万円減少し、営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益はそれぞれ81百万円増加しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年 5 月17日）
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年 5 月17日）

1. 概要

(1) 連結貸借対照表上の取扱い

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を、税効果を調整の上、純資産の部（その他の包括利益累計額）に計上することとし、積立状況を示す額を負債（又は資産）として計上することとなります。

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書上の取扱い

数理計算上の差異及び過去勤務費用の当期発生額のうち、費用処理されない部分についてはその他の包括利益に含めて計上し、その他の包括利益累計額に計上されている未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用のうち、当期に費用処理された部分についてはその他の包括利益の調整（組替調整）を行うこととなります。

2. 適用予定日

2013年 4 月 1 日以後開始する連結会計年度の期末から適用

3. 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時に於いて財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

(表示方法の変更)

当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)	
該当事項はありません。	

(連結貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)		当連結会計年度 (2013年 3 月31日)	
現金及び預金	63百万円		63百万円	
建物及び構築物	1,233	(710百万円)	1,133	(634百万円)
機械装置及び運搬具	0	(0)	0	(0)
土地	1,055	(439)	1,055	(439)
投資有価証券	3,145		3,555	
合計	5,497	(1,149)	5,807	(1,073)

上記に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)		当連結会計年度 (2013年 3 月31日)	
短期借入金	4,425百万円	(1,625百万円)	3,655百万円	(1,755百万円)
長期借入金	3,085	(3,085)	2,680	(2,680)
合計	7,510	(4,710)	6,335	(4,435)

上記のうち () 内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

2 非連結子会社及び関連会社に対するもの

非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)		当連結会計年度 (2013年 3 月31日)	
投資有価証券(株式)	138百万円		58百万円	
出資金	479		518	

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
退職給付費用	79百万円	84百万円
荷造運送費	1,811	2,359
従業員給料	1,081	1,195
のれん償却額	3	-
減価償却費	181	191
賞与引当金繰入額	102	236
役員賞与引当金繰入額	43	39
役員退職慰労引当金繰入額	40	36
研究開発費	2,183	2,147

2 研究開発費の総額

一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
	2,183百万円	2,147百万円

3 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
機械装置及び運搬具	87百万円	3百万円
工具、器具及び備品	10	37
合計	98	40

4 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
建物及び構築物	0百万円	- 百万円
機械装置及び運搬具	1	12
工具、器具及び備品	-	9
合計	2	22

5 固定資産廃棄損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
建物及び構築物	0百万円	15百万円
機械装置及び運搬具	9	84
工具、器具及び備品	23	12
合計	33	112

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
36百万円	66百万円

7 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自2011年 4月 1日 至2012年 3月31日）

場所	用途	種類
伊勢崎事業部 (群馬県伊勢崎市)	遊休資産	工具、器具及び備品

当社グループは、原則として、事業用資産については事業部等を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度に於いて、事業の用に供していない遊休資産の内、今後の稼動見込みが乏しいと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(0百万円)として特別損失に計上しました。

尚、回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、備忘価額を正味売却価額としております。

その内訳は、伊勢崎事業部0百万円(内、工具、器具及び備品0百万円)であります。

当連結会計年度（自2012年 4月 1日 至2013年 3月31日）

場所	用途	種類
ヤマダ ソンブン カン パニー リミテッド (タイ国ラヨン県)	遊休資産	工具、器具及び備品

当社グループは、原則として、事業用資産については事業部等を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度に於いて、事業の用に供していない遊休資産の内、今後の稼動見込みが乏しいと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(3百万円)として特別損失に計上しました。

尚、回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、備忘価額を正味売却価額としております。

その内訳は、ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド3百万円(内、工具、器具及び備品3百万円)であります。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2011年4月1日 至 2012年3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	28百万円	576百万円
組替調整額	-	-
税効果調整前	28	576
税効果額	158	203
その他有価証券評価差額金	186	373
為替換算調整勘定：		
当期発生額	97	1,725
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	9	27
その他の包括利益合計	79	2,126

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自2011年4月1日至2012年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	765,600	-	6,474	759,126
合計	765,600	-	6,474	759,126
自己株式				
普通株式	-	6,474	6,474	-
合計	-	6,474	6,474	-

(注) 1. 発行済株式の株式数の減少6,474株は自己株式の消却によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加6,474株は、株主総会決議による自己株式の取得によるものであり、減少6,474株は自己株式の消却によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2011年6月17日 定時株主総会	普通株式	153	200	2011年3月31日	2011年6月20日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2012年6月22日 定時株主総会	普通株式	151	利益剰余金	200	2012年3月31日	2012年6月25日

当連結会計年度(自2012年4月1日至2013年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	759,126	-	38,474	720,652
合計	759,126	-	38,474	720,652
自己株式				
普通株式	-	38,474	38,474	-
合計	-	38,474	38,474	-

(注) 1. 発行済株式の株式数の減少38,474株は自己株式の消却によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の増加38,474株は、株主総会決議での自己株式の取得による増加38,400株及び単元未満株式買取による増加74株であり、減少38,474株は自己株式の消却によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2012年6月22日 定時株主総会	普通株式	151	200	2012年3月31日	2012年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2013年6月21日 定時株主総会	普通株式	144	利益剰余金	200	2013年3月31日	2013年6月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2011年4月1日 至 2012年3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)
現金及び預金勘定	2,266百万円	2,223百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	589	589
現金及び現金同等物	1,677	1,634

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、製造部門に於ける測定器(工具、器具及び備品)、製造部門、管理部門に於けるホストコンピュータ及びコンピュータ端末機(工具、器具及び備品)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

尚、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(2012年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	112百万円	99百万円	12百万円
その他	17	14	3
合計	130	114	16

当連結会計年度(2013年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	15百万円	14百万円	0百万円
合計	15	14	0

(2)未経過リース料期末残高相当額等

	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当連結会計年度 (2013年3月31日)
1年内	12百万円	1百万円
1年超	4	0
合計	16	1

(3)支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自2011年4月1日 至2012年3月31日)	当連結会計年度 (自2012年4月1日 至2013年3月31日)
支払リース料	35百万円	10百万円
減価償却費相当額	31	9
支払利息相当額	0	0

(4)減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な長期資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しております。一時的な余資は主に短期借入金の返済に充て、又、調達については運転資金を銀行借入により賄っております。デリバティブは、後述するリスクを回避する為に利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。又、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、同じ外貨建ての買掛金の残高の範囲内にあるものを除き、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券及び出資金は、主に業務上の関係を有する企業の株式及び出資金であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、その殆どが4ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、同じ外貨建ての売掛金の残高の範囲内にあるものを除き、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金、社債は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済期日は最長で決算日後5年であります。この内一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、長期借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。尚、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「4. 会計処理基準に関する事項 (5)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程及び与信管理規程に従い、営業債権について、営業本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理すると共に、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の販売管理規程及び与信管理規程に準じて、同様の管理を行っております。デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定している為、信用リスクは殆ど無いと認識しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。又、当社は、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクを抑制する為に、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券及び出資金については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、又、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた管理規程・要領に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部門が月次の資金繰計画を作成・更新すると共に、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額の他、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定に於いては変動要因を織り込んでいる為、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。尚、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

前連結会計年度(2012年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	2,266	2,266	-
(2)受取手形及び売掛金	9,148	9,148	-
(3)投資有価証券	4,114	4,114	-
資産計	15,530	15,530	-
(1)支払手形及び買掛金	9,661	9,661	-
(2)短期借入金	8,310	8,310	-
(3)社債	1,000	1,002	2
(4)長期借入金	7,338	7,368	30
負債計	26,310	26,343	32
デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度（2013年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	2,223	2,223	-
(2)受取手形及び売掛金	10,193	10,193	-
(3)投資有価証券	4,706	4,706	-
資産計	17,124	17,124	-
(1)支払手形及び買掛金	10,109	10,109	-
(2)短期借入金	11,870	11,870	-
(3)未払金	3,081	3,081	-
(4)長期借入金	7,332	7,366	33
負債計	32,394	32,427	33
デリバティブ取引	-	-	-

（注）１．金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものである為、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負 債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金

これらは短期間で決済されるものである為、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。尚、変動金利による長期借入金のうち、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される、合理的に見積られた利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

２．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当連結会計年度 (2013年3月31日)
非上場株式	140	58
出資金	479	518

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

３．金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2012年３月31日）

	１年以内 （百万円）	１年超 ５年以内 （百万円）	５年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
預金	2,265	-	-	-
受取手形及び売掛金	9,148	-	-	-
合計	11,414	-	-	-

当連結会計年度（2013年３月31日）

	１年以内 （百万円）	１年超 ５年以内 （百万円）	５年超 10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
預金	2,221	-	-	-
受取手形及び売掛金	10,193	-	-	-
合計	12,415	-	-	-

４．社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2012年３月31日）

	１年以内 （百万円）	１年超 ２年以内 （百万円）	２年超 ３年以内 （百万円）	３年超 ４年以内 （百万円）	４年超 ５年以内 （百万円）	５年超 （百万円）
短期借入金	8,310	-	-	-	-	-
社債	1,000	-	-	-	-	-
長期借入金	2,683	2,381	1,387	750	135	-
合計	11,994	2,381	1,387	750	135	-

当連結会計年度（2013年３月31日）

	１年以内 （百万円）	１年超 ２年以内 （百万円）	２年超 ３年以内 （百万円）	３年超 ４年以内 （百万円）	４年超 ５年以内 （百万円）	５年超 （百万円）
短期借入金	11,870	-	-	-	-	-
長期借入金	2,901	2,010	1,334	724	361	-
合計	14,772	2,010	1,334	724	361	-

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

3. その他有価証券

前連結会計年度(2012年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	4,084	844	3,240
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	4,084	844	3,240
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	29	38	8
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	29	38	8
合計		4,114	882	3,231

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 2百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2013年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	4,706	898	3,808
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	4,706	898	3,808
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		4,706	898	3,808

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 58百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

該当事項はありません。

５．減損処理を行った有価証券

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当連結会計年度 (2013年3月31日)
連結会計年度の有価証券についての減損処理	1	0

(注) 減損処理にあたっては、期末に於ける実質価額が取得原価に比べ50%以上低下したときは、回復可能性があると認められる場合を除き、減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

１．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

２．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(2012年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定 支払	長期借入金	1,090	670	9

(注)時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2013年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定 支払	長期借入金	670	250	5

(注)時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、規約型企業年金制度を設けております。一部の海外子会社では確定拠出型の制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当連結会計年度 (2013年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	5,235	5,459
(2) 年金資産(百万円)	4,670	5,834
(3) 未積立退職給付債務(百万円)(1) + (2)	565	375
(4) 会計基準変更時差異の未処理額(百万円)	97	64
(5) 未認識数理計算上の差異(百万円)	1,256	385
(6) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	117	98
(7) 連結貸借対照表計上額純額(百万円)(3) + (4) + (5) + (6)	670	727
(8) 前払年金費用(百万円)	670	727
(9) 退職給付引当金(百万円)(7) - (8)	-	-

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 2011年4月1日 至 2012年3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年4月1日 至 2013年3月31日)
(1) 勤務費用(百万円)	337	338
(2) 利息費用(百万円)	102	106
(3) 期待運用収益(減算)(百万円)	86	93
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額(百万円)	32	32
(5) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	178	187
(6) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	19	19
(7) その他	24	56
(8) 退職給付費用(百万円)	570	609

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (2012年3月31日)	当連結会計年度 (2013年3月31日)
(1) 割引率(%)	2.0	同左
(2) 期待運用収益率(%)	2.0	同左
(3) 過去勤務債務の額の処理年数(年)	14	同左
(4) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(5) 数理計算上の差異の処理年数(年)	14	同左
(6) 会計基準変更時差異の処理年数(年)	15	同左

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (2013年 3 月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	42	97
賞与引当金	337	370
一括償却資産損金算入超過額	13	23
たな卸資産未実現損益	110	188
減価償却超過額	246	553
役員退職慰労引当金	75	75
設備売上の未実現利益	96	114
投資有価証券評価損	10	10
社会保険料引当額	47	52
連結子会社繰越欠損金	221	408
減損損失	34	18
資産除去債務	4	4
その他	159	200
繰延税金資産小計	1,401	2,118
評価性引当額	210	81
繰延税金資産合計	1,191	2,036
繰延税金負債		
前払年金費用	237	257
その他有価証券評価差額金	1,137	1,341
土地圧縮積立金認容額	123	123
その他	361	717
繰延税金負債合計	1,859	2,439
繰延税金資産(負債)の純額	668	402

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度に於ける繰延税金資産(負債)の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2012年 3 月31日)	当連結会計年度 (2013年 3 月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	703	999
投資その他の資産 - 繰延税金資産	164	207
固定負債 - 繰延税金負債	1,536	1,610
	668	402

２．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2012年 3月31日)	当連結会計年度 (2013年 3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.4	37.8
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.0	1.3
住民税均等割等	0.5	0.3
評価性引当額の増減	0.8	3.8
過年度法人税等	17.2	-
連結子会社の適用税率差異	5.5	4.7
連結子会社の留保利益	1.4	4.9
その他	2.9	0.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.2	34.0

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

在有建物の解体時に於けるアスベスト除去費用等について資産除去債務を計上しております。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から31年と見積り、割引率は2.26%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
期首残高	13百万円	13百万円
時の経過による調整額	0	0
期末残高	13	13

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社は、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が資源配分の意思決定及び業績評価をする為に、定期的に検討を行う対象として、生産・販売を基礎とした所在地別セグメントから構成される、「日本」、「米国」、「タイ国」、「中国」、「英国」の5つを報告セグメントとしております。
各報告セグメントでは、主に自動車部品の製造・販売をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に於ける記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益(のれん償却前)ベースの数値であります。

セグメント間売上高は、第三者間取引価格に基づいております。

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

「会計方針の変更」に記載の通り、従来、有形固定資産の減価償却方法について主として定率法によっておりましたが、当連結会計年度より、定額法に変更しております。

この変更により、従来の方によった場合と比較して、当連結会計年度に於けるセグメント利益は「日本」で81百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2011年4月1日至2012年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	米国	タイ国	中国	英国	計
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	41,621	11,499	4,219	9,806	1,481	68,628
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	8,226	55	774	239	105	9,401
計	49,847	11,555	4,994	10,046	1,586	78,029
セグメント利益	1,616	40	233	322	19	2,233
セグメント資産	31,405	7,142	3,520	6,738	1,007	49,814
その他の項目						
減価償却費	2,881	829	467	566	61	4,806
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,957	1,394	385	564	19	4,321

当連結会計年度（自2012年4月1日至2013年3月31日）

(単位：百万円)

	日本	米国	タイ国	中国	英国	計
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	42,519	16,701	7,652	13,668	1,776	82,319
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	10,768	91	1,798	199	89	12,946
計	53,287	16,793	9,451	13,867	1,866	95,266
セグメント利益	2,837	220	319	709	81	4,169
セグメント資産	32,840	9,990	8,736	8,543	1,152	61,263
その他の項目						
減価償却費	2,395	981	583	797	57	4,815
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,515	2,975	3,199	1,637	19	11,348

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	78,029	95,266
セグメント間取引消去	9,401	12,946
連結財務諸表の売上高	68,628	82,319

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,233	4,169
セグメント間取引消去	64	591
のれんの償却額	3	-
連結財務諸表の営業利益	2,164	3,577

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	49,814	61,263
セグメント間取引消去	3,270	3,623
全社資産(注)	617	574
連結財務諸表の資産合計	47,161	58,214

(注)全社資産は、主に持分法適用会社の投資有価証券であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	4,806	4,815	76	73	4,729	4,741
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	4,321	11,348	109	112	4,211	11,235

【関連情報】

前連結会計年度(自2011年4月1日 至2012年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超える為、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア	合計
41,224	11,816	1,572	14,015	68,628

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	タイ国	中国	英国	調整	合計
12,844	3,689	2,116	2,632	320	276	21,327

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業株式会社	33,687	日本
ホンダ オブ アメリカ マニファクチャリング インコーポレーテッド	7,497	米国

当連結会計年度(自2012年4月1日 至2013年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超える為、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア	合計
42,285	17,013	1,798	21,221	82,319

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	タイ国	中国	英国	調整	合計
13,736	5,430	5,137	3,706	305	437	27,879

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
本田技研工業株式会社	32,367	日本
ホンダ オブ アメリカ マニファクチャリング インコーポレーテッド	11,468	米国

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自2011年4月1日 至2012年3月31日)

(単位：百万円)

	日本	米国	タイ国	中国	英国	調整	合計
減損損失	0	-	-	-	-	-	0

当連結会計年度(自2012年4月1日 至2013年3月31日)

(単位：百万円)

	日本	米国	タイ国	中国	英国	調整	合計
減損損失	-	-	3	-	-	-	3

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自2011年4月1日 至2012年3月31日)

金額的重要性が乏しい為、記載を省略しております。

当連結会計年度(自2012年4月1日 至2013年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自2011年4月1日 至2012年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自2012年4月1日 至2013年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

(1)連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア)親会社及び法人主要株主等

前連結会計年度(自2011年4月1日至2012年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
その他の関係会社	本田技研工業㈱	東京都港区	86,067	自動車等の製造販売	(被所有)直接 33.8%	被転籍 4名	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	33,687	売掛金	3,507
								原材料の仕入	10,151	買掛金	1,137

当連結会計年度(自2012年4月1日至2013年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
その他の関係会社	本田技研工業㈱	東京都港区	86,067	自動車等の製造販売	(被所有)直接 35.7%	被転籍 3名	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	32,367	売掛金	2,661
								原材料の仕入	9,639	買掛金	918

(イ)連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自2011年4月1日至2012年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
その他の関係会社の子会社	㈱ホンダトレーディング	東京都港区	1,600	自動車等の原材料、部品の販売	(被所有)直接 1.3%	-	製品の販売及び原材料の仕入先	原材料の仕入	4,455	支払手形及び買掛金	775

当連結会計年度(自2012年4月1日至2013年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
その他の関係会社の子会社	㈱ホンダトレーディング	東京都港区	1,600	自動車等の原材料、部品の販売	(被所有)直接 1.4%	-	製品の販売及び原材料の仕入先	原材料の仕入	4,312	支払手形及び買掛金	662

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度（自2011年4月1日 至2012年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	ホンダオブアメリカ カマニユファク チャリング・イン コーポレートッド	米国オハイオ州	578百万 米ドル	車両の製造	-	-	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	7,497	売掛金	1,171
								原材料の仕入	1,727	買掛金	206
その他の関係会社の子会社	東風本田発動機有限公司	中国広東省広州市	121百万 米ドル	車両の製造	-	-	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	4,059	売掛金	403
								原材料の仕入	1,939	買掛金	258

当連結会計年度（自2012年4月1日 至2013年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関係内容		取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	ホンダオブアメリカ カマニユファク チャリング・イン コーポレートッド	米国オハイオ州	578百万 米ドル	車両の製造	-	-	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	11,468	売掛金	1,182
								原材料の仕入	2,820	買掛金	309
その他の関係会社の子会社	東風本田発動機有限公司	中国広東省広州市	121百万 米ドル	車両の製造	-	-	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	4,457	売掛金	31
								原材料の仕入	1,497	買掛金	371
その他の関連会社の子会社	ホンダオートモビル (タイランド)カンパニー・リミテッド	タイアユタヤ県	5,460百万 バーツ	車両の製造	-	-	製品の販売及び原材料の仕入先	製品の販売	4,569	売掛金	1,047

(注) 1. 上記(1)、(2)の金額のうち、取引金額には消費税等を含めず、期末残高には消費税等を含めております。

2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

取引条件の決定方法は、一般取引と同様に市場価格を参考とし、価格交渉のうえ決定しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
1株当たり純資産額 18,261円16銭	1株当たり純資産額 24,443円04銭
1株当たり当期純利益 1,251円63銭	1株当たり当期純利益 3,080円49銭
尚、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しない為記載しておりません。	尚、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しない為記載しておりません。

(注) 1 . 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
当期純利益(百万円)	954	2,268
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	954	2,268
期中平均株式数(株)	762,345	736,355

(注) 2 . 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2012年 3月31日)	当連結会計年度末 (2013年 3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	15,014	19,149
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	1,151	1,534
(うち少数株主持分)	(1,151)	(1,534)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	13,862	17,614
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	759,126	720,652

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
㈱山田製作所	第3回無担保普通社債	2008年3月25日	500	- (-)	1.21	-	2013年3月25日
㈱山田製作所	第4回無担保普通社債	2008年3月26日	500	- (-)	1.33	-	2013年3月26日
合計	-	-	1,000	- (-)	-	-	-

(注) () 内書は、1年以内の償還予定額であります。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,310	11,870	2.21	-
1年以内に返済予定の長期借入金	2,683	2,901	1.24	-
1年以内に返済予定のリース債務	6	13	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,654	4,431	1.07	2014年4月～ 2018年2月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	12	28	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	15,668	19,245	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。尚、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上している為、「平均利率」を記載しておりません。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年間に於ける返済予定額は以下のとおりです。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,010	1,334	724	361
リース債務	10	9	8	0

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末に於ける資産除去債務の金額が負債及び純資産の合計額の100分の1以下である為、作成を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2012年 3 月31日)	当事業年度 (2013年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 1,204	1 1,132
受取手形	2	8
売掛金	2 8,474	2 8,107
製品	1,082	1,209
仕掛品	984	940
原材料及び貯蔵品	1,026	950
前払費用	54	42
繰延税金資産	450	602
未収入金	556	622
その他	29	41
流動資産合計	13,865	13,660
固定資産		
有形固定資産		
建物	10,452	10,434
減価償却累計額	5,967	6,218
建物（純額）	1 4,485	1 4,216
構築物	905	898
減価償却累計額	634	660
構築物（純額）	270	238
機械及び装置	30,132	30,186
減価償却累計額	24,618	25,170
機械及び装置（純額）	1 5,513	1 5,016
車両運搬具	30	28
減価償却累計額	27	25
車両運搬具（純額）	3	3
工具、器具及び備品	8,799	8,889
減価償却累計額	8,247	7,989
工具、器具及び備品（純額）	552	900
土地	1 1,829	1 1,829
リース資産	32	62
減価償却累計額	14	23
リース資産（純額）	17	39
建設仮勘定	173	1,492
有形固定資産合計	12,844	13,736
無形固定資産		
ソフトウェア	116	147
電話加入権	4	4
ソフトウェア仮勘定	-	47

	前事業年度 (2012年 3 月31日)	当事業年度 (2013年 3 月31日)
その他	1	2
無形固定資産合計	121	201
投資その他の資産		
投資有価証券	173	233
関係会社株式	1 9,411	1 9,943
関係会社出資金	1,958	1,958
長期前払費用	0	0
前払年金費用	670	727
その他	22	19
投資その他の資産合計	12,237	12,883
固定資産合計	25,204	26,821
資産合計	39,070	40,481
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,494	1,369
買掛金	2 6,345	2 5,220
短期借入金	1 4,100	1 3,100
1年内返済予定の長期借入金	1 2,371	1 2,425
1年内償還予定の社債	1,000	-
リース債務	6	13
未払金	1,115	2,190
未払費用	559	619
未払法人税等	369	1,096
未払消費税等	161	26
預り金	42	48
賞与引当金	893	982
役員賞与引当金	43	39
設備関係支払手形	147	1,324
流動負債合計	18,649	18,454
固定負債		
長期借入金	1 3,972	1 3,387
リース債務	12	28
繰延税金負債	1,441	1,322
役員退職慰労引当金	204	204
資産除去債務	13	13
固定負債合計	5,643	4,956
負債合計	24,293	23,411

	前事業年度 (2012年 3 月31日)	当事業年度 (2013年 3 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金		
資本準備金	952	952
資本剰余金合計	952	952
利益剰余金		
利益準備金	144	144
その他利益剰余金		
土地圧縮積立金	225	225
別途積立金	5,550	5,550
繰越利益剰余金	3,809	5,729
利益剰余金合計	9,729	11,649
自己株式	-	-
株主資本合計	12,682	14,602
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,094	2,467
評価・換算差額等合計	2,094	2,467
純資産合計	14,776	17,069
負債純資産合計	39,070	40,481

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
売上高	1 49,847	1 53,287
売上原価		
製品期首たな卸高	1,562	1,082
当期製品製造原価	1 42,020	1 44,436
合計	43,582	45,518
製品期末たな卸高	1,082	1,209
製品売上原価	6 42,500	6 44,308
売上総利益	7,346	8,979
販売費及び一般管理費	2, 3 5,730	2, 3 6,141
営業利益	1,616	2,837
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1 199	1 179
為替差益	33	240
補償収益	1 10	1 7
雇用調整助成金	59	-
雑収入	36	1 40
営業外収益合計	339	467
営業外費用		
支払利息	135	93
社債利息	13	12
補償費用	7	46
売上割引	7	7
雑損失	2	0
営業外費用合計	166	161
経常利益	1,789	3,143
特別利益		
固定資産売却益	4 0	-
補助金収入	-	77
特別利益合計	0	77
特別損失		
固定資産廃棄損	5 18	5 96
投資有価証券評価損	1	-
補償損失	1 144	-
減損損失	7 0	-
特別損失合計	165	96
税引前当期純利益	1,623	3,124
法人税、住民税及び事業税	420	1,346
過年度法人税等	349	-
法人税等調整額	11	474
法人税等合計	780	871
当期純利益	842	2,252

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)		当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	27,599	65.2	29,015	64.7
労務費		7,402	17.5	8,002	17.9
経費		7,346	17.3	7,812	17.4
当期総製造費用	2	42,349	100.0	44,830	100.0
期首仕掛品たな卸高		1,083		984	
合計		43,432		45,814	
期末仕掛品たな卸高		984		940	
他勘定振替高		292		297	
作業屑売却		135		140	
当期製品製造原価		42,020		44,436	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりです。

項目	前事業年度	当事業年度
外注加工費(百万円)	2,066	1,490
減価償却費(百万円)	2,590	2,174

2 内訳は、次のとおりです。

項目	前事業年度	当事業年度
固定資産勘定へ振替(百万円)	193	197
販売費及び一般管理費(百万円)	99	99
合計(百万円)	292	297

(原価計算の方法)

当社が採用している原価計算の方法は、設備・金型製作については個別原価計算であり、その他については工程別総合原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,000	2,000
当期末残高	2,000	2,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	952	952
当期末残高	952	952
資本剰余金合計		
当期首残高	952	952
当期末残高	952	952
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	144	144
当期末残高	144	144
その他利益剰余金		
土地圧縮積立金		
当期首残高	208	225
当期変動額		
土地圧縮積立金の積立	17	-
当期変動額合計	17	-
当期末残高	225	225
別途積立金		
当期首残高	5,550	5,550
当期末残高	5,550	5,550
繰越利益剰余金		
当期首残高	3,235	3,809
当期変動額		
土地圧縮積立金の積立	17	-
剰余金の配当	153	151
当期純利益	842	2,252
自己株式の消却	98	180
当期変動額合計	573	1,920
当期末残高	3,809	5,729
利益剰余金合計		
当期首残高	9,138	9,729
当期変動額		
剰余金の配当	153	151
当期純利益	842	2,252
自己株式の消却	98	180
当期変動額合計	591	1,920

	前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
当期末残高	9,729	11,649
自己株式		
当期首残高	-	-
当期変動額		
自己株式の取得	98	180
自己株式の消却	98	180
当期末残高	-	-
株主資本合計		
当期首残高	12,090	12,682
当期変動額		
剰余金の配当	153	151
当期純利益	842	2,252
自己株式の取得	98	180
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	591	1,920
当期末残高	12,682	14,602
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,908	2,094
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	186	373
当期変動額合計	186	373
当期末残高	2,094	2,467
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,908	2,094
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	186	373
当期変動額合計	186	373
当期末残高	2,094	2,467
純資産合計		
当期首残高	13,999	14,776
当期変動額		
剰余金の配当	153	151
当期純利益	842	2,252
自己株式の取得	98	180
自己株式の消却	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	186	373
当期変動額合計	777	2,293
当期末残高	14,776	17,069

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

尚、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 31～50年

機械及び装置 9年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。

尚、自社利用のソフトウェアについては、社内に於ける利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備える為、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に債権の回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備える為、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度に於ける支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金(前払年金費用)

従業員の退職給付に備える為、当事業年度の末日に於ける退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

尚、当事業年度末に於いては、前払年金費用(727百万円)を計上しております。

会計基準変更時差異(952百万円)については、15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)による定額法により費用処理しております。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)による定額法により、翌事業年度から費用処理することとしています。

(5) 役員退職慰労引当金

役員及び執行役員の退職により支給する退職慰労金に充当するため、内規に基づく事業年度末要支給額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。又、為替予約が付されている外貨建金銭債権については、振当処理を、金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...製品輸出等による外貨建売上債権

b. ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金

(3) ヘッジ方針

外貨建取引に対する為替リスクをヘッジする手段として為替予約取引を行うものとし、借入金の金利変動リスクをヘッジする手段として、金利スワップ取引を行うこととしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てており、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されているため決算日に於ける有効性の評価を省略しております。特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)	
(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更) 当社は、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、従来は主として定率法によっておりましたが、当事業年度より定額法に変更しております。 従来、当社では新機種の立ち上がり時に受注が多く、年数の経過と共に受注減少となる傾向がありましたが、主要な顧客に於いて経済状況の変化に対応したグローバル展開や製品・部品の共有化が進み、中型車を中心とした特定車種向け製品の売れ行きに左右された過去に比べ、今後は小型車向け製品を中心に安定的になる傾向が益々強まる見込みであります。このような需要変化のなか、当社では需要の変化に柔軟に対応した生産体制の整備を行うべく、設備投資を行っております。需要変化に伴う設備投資を契機に、有形固定資産の内容及び使用状況等を検討した結果、有形固定資産は今後、収益に対して安定的に貢献する見通しであります。従って、耐用年数にわたり均等償却により費用配分を行うことが有形固定資産の実態をより適切に反映できるものと判断し、従来の償却方法を見直し、定額法を採用することに致しました。 この変更に伴い、従来の方法と比較して、当事業年度の減価償却費が83百万円減少し、営業利益、経常利益、税引前当期純利益はそれぞれ81百万円増加しております。	

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (2012年3月31日)		当事業年度 (2013年3月31日)	
現金及び預金	63百万円		63百万円	
建物	1,233	(710百万円)	1,133	(634百万円)
機械及び装置	0	(0)	0	(0)
土地	1,055	(439)	1,055	(439)
関係会社株式	3,145		3,555	
合計	5,497	(1,149)	5,807	(1,073)

上記に対応する債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2012年3月31日)		当事業年度 (2013年3月31日)	
短期借入金	2,800百万円	(- 百万円)	1,900百万円	(- 百万円)
1年内返済予定の長期借入金	1,625	(1,625)	1,755	(1,755)
長期借入金	3,085	(3,085)	2,680	(2,680)
合計	7,510	(4,710)	6,335	(4,435)

上記のうち()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

2 関係会社に対する主な資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは次のとおりであります。

	前事業年度 (2012年3月31日)		当事業年度 (2013年3月31日)	
売掛金	5,879百万円		5,050百万円	
買掛金	1,342		948	

3 偶発債務

次の関係会社について、金融機関からの借入金及び取引先に対する債務保証を行っております。

	前事業年度 (2012年3月31日)		当事業年度 (2013年3月31日)	
ヤマダ ノースアメリカ	2,325百万円	ヤマダ ノースアメリカ	4,059百万円	
インコーポレーテッド	(27百万米ドル)	インコーポレーテッド	(50百万米ドル)	
ヤマダ ヨーロッパ	20百万円	ヤマダ ヨーロッパ	- 百万円	
カンパニー リミテッド	(0百万英ポンド)	カンパニー リミテッド	(- 百万英ポンド)	
	- 百万円		98百万円	
成都天興山田車用品有限公司	(- 百万元)	成都天興山田車用品有限公司	(6百万元)	

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当事業年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
売上高	41,922百万円	43,137百万円
補償収益	10	2
受取配当金	191	175
雑収入	-	18
仕入高	10,555	10,505
補償損失	144	-

2 販売費及び一般管理費

販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度23%、当事業年度26%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度77%、当事業年度74%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当事業年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
荷造運送費	1,162百万円	1,356百万円
従業員給料	930	986
賞与引当金繰入額	92	122
役員退職慰労引当金繰入額	40	36
退職給付費用	77	77
減価償却費	76	61
研究開発費	2,183	2,147

3 研究開発費の総額

一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当事業年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
	2,183百万円	2,147百万円

4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当事業年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
工具、器具及び備品	0百万円	- 百万円
合計	0	-

5 固定資産廃棄損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当事業年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
建物	- 百万円	14百万円
構築物	0百万円	1百万円
車両運搬具	- 百万円	0百万円
機械及び装置	9	69
工具、器具及び備品	9	11
合計	18	96

- 6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前事業年度 (自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日)	当事業年度 (自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日)
36百万円	66百万円

7 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自2011年 4月 1日 至2012年 3月31日)

場所	用途	種類
伊勢崎事業部 (群馬県伊勢崎市)	遊休資産	工具、器具及び備品

当社は、原則として、事業用資産については事業部を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度に於いて、事業の用に供していない遊休資産のうち、今後の移動見込みが乏しいと判断した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(0百万円)として特別損失に計上しました。

尚、回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、備忘価額を正味売却価額としております。

その内訳は、伊勢崎事業部0百万円(内、工具、器具及び備品0百万円)であります。

当事業年度(自2012年 4月 1日 至2013年 3月31日)

当事業年度については、該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自2011年 4月 1日 至2012年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	-	6,474	6,474	-

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加6,474株は、株主総会決議による自己株式の取得によるものであり、

減少6,474株は自己株式の消却によるものであります。

当事業年度(自2012年 4月 1日 至2013年 3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式(注)	-	38,474	38,474	-

(注) 普通株式の自己株式の株式数増加38,474株は、株主総会決議での自己株式の取得による増加38,400株及び単元未満株式買取りによる増加74株であり、減少38,474株は自己株式の消却によるものであります。

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、製造部門に於ける測定器(工具、器具及び備品)、製造部門、管理部門に於けるホストコンピュータ及びコンピュータ端末機(工具、器具及び備品)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

尚、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(2012年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	112百万円	99百万円	12百万円
その他	17	14	3
合計	130	114	16

当事業年度(2013年3月31日)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	15百万円	14百万円	0百万円
合計	15	14	0

(2)未経過リース料期末残高相当額等

	前事業年度 (2012年3月31日)	当事業年度 (2013年3月31日)
1年内	12百万円	1百万円
1年超	4	0
合計	16	1

(3)支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自2011年4月1日 至2012年3月31日)	当事業年度 (自2012年4月1日 至2013年3月31日)
支払リース料	35百万円	10百万円
減価償却費相当額	31	9
支払利息相当額	0	0

(4)減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(2012年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式(出資金含む)7,315百万円、関連会社株式(出資金含む)111百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2013年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式(出資金含む)7,315百万円、関連会社株式(出資金含む)111百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2012年3月31日)	当事業年度 (2013年3月31日)
(単位：百万円)		
繰延税金資産		
未払事業税	42	97
賞与引当金	337	370
一括償却損金算入超過額	13	23
減価償却超過額	148	396
役員退職慰労引当金	75	75
投資有価証券評価損	10	10
関係会社株式評価損	43	43
社会保険料引当額	47	52
減損損失	34	18
資産除去債務	4	4
その他	2	33
繰延税金資産小計	761	1,127
評価性引当額	253	125
繰延税金資産合計	507	1,002
繰延税金負債		
前払年金費用	237	257
その他有価証券評価差額金	1,137	1,341
土地圧縮積立金認容額	123	123
その他	0	0
繰延税金負債合計	1,498	1,722
繰延税金資産（負債）の純額	991	720

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2012年3月31日)	当事業年度 (2013年3月31日)
(単位：%)		
法定実効税率	40.4	37.8
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.8	1.5
住民税均等割等	0.6	0.3
評価性引当額の増減	1.8	4.4
過年度法人税等	21.5	-
税額控除	12.8	4.5
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.1	27.9

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

在有建物の解体時に於けるアスベスト除去費用等について資産除去債務を計上しております。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から31年と見積り、割引率は2.26%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
期首残高	13百万円	13百万円
時の経過による調整額	0	0
期末残高	13	13

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
1株当たり純資産額 19,465円34銭	1株当たり純資産額 23,686円72銭
1株当たり当期純利益 1,105円64銭	1株当たり当期純利益 3,059円49銭
尚、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	尚、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)	当事業年度 (自 2012年 4 月 1 日 至 2013年 3 月31日)
当期純利益(百万円)	842	2,252
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	842	2,252
期中平均株式数(株)	762,345	736,356

(注) 2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度末 (2012年 3 月31日)	当事業年度末 (2013年 3 月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	14,776	17,069
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	14,776	17,069
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	759,126	720,652

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄			株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他 有価証券	(株)クボタ	88,000	117
		(株)日立製作所	67,043	36
		(株)群馬銀行	64,730	36
		川崎重工業(株)	57,368	16
		(株)大紀アルミニウム工業所	49,377	10
		エフ・シー・シー(株)	4,356	9
		野村ホールディングス(株)	3,090	1
		丸紅(株)	3,000	2
		(株)葉山ホンダ	80	0
		(株)エフエム桐生	60	0
		その他(2 銘柄)	40	0
		小計	337,144	233
計			337,144	233

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	10,452	64	82	10,434	6,218	319	4,216
構築物	905	3	9	898	660	33	238
機械及び装置	30,132	1,291	1,236	30,186	25,170	1,673	5,016
車両運搬具	30	1	2	28	25	1	3
工具、器具及び備品	8,799	667	557	8,889	7,989	307	900
リース資産	32	38	8	62	23	12	39
土地	1,829	-	-	1,829	-	-	1,829
建設仮勘定	173	2,979	1,660	1,492	-	-	1,492
有形固定資産計	52,353	5,046	3,577	53,823	40,086	2,347	13,736
無形固定資産							
ソフトウェア	214	79	29	264	117	48	147
電話加入権	4	-	-	4	-	-	4
その他	1	0	-	2	0	0	2
ソフトウェア仮勘定	-	47	-	47	-	-	47
無形固定資産計	220	127	29	318	117	48	201
長期前払費用	3	-	2	1	0	0	0

(注) 1. 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	新規受注製品の生産設備等	1,126百万円
工具、器具及び備品	鋳造金型及びプレス金型	392百万円

2. 当期減少額のうち、主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	老朽化及び旧型設備の除却	991百万円
工具、器具及び備品	老朽化金型、治具の除却	435百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	893	982	893	-	982
役員賞与引当金	43	39	43	-	39
役員退職慰労引当金	204	36	36	-	204

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	1
預金	
当座預金	537
普通預金	4
定期預金	589
小計	1,130
合計	1,132

ロ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
ホンダトレーディング	5
(株)友栄	2
その他	0
合計	8

期日別内訳

期日	金額(百万円)
2013年 4 月	2
5 月	1
6 月	3
合計	8

八．売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
本田技研工業㈱	2,661
富士重工業㈱	2,303
ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド	1,018
ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド	629
成都天興山田車用部品有限公司	569
その他	925
合計	8,107

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A) + (D) ----- 2 ----- (B) ----- 365
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	
8,474	55,399	55,767	8,107	87.31	54.62

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

二．製品

品目	金額(百万円)
四輪車部品	1,099
二輪車部品	45
その他	64
合計	1,209

ホ．仕掛品

品目	金額(百万円)
四輪車部品	599
二輪車部品	119
その他	221
合計	940

ヘ．原材料及び貯蔵品

品目	金額(百万円)
原材料	
アルミ二次合金	5
焼結材	6
樹脂材	1
鉄系材	0
購入部品	386
その他	0
小計	401
貯蔵品	
工具及び刃物	517
その他	31
小計	549
合計	950

固定資産

イ．関係会社株式

会社名	金額(百万円)
ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド	3,974
本田技研工業㈱	4,475
ヤマダ ヨーロッパ カンパニー リミテッド	1,103
ヤマダ ソンブン カンパニー リミテッド	353
コストゥルツィオーネ イタリアーナ アッパレッキ	37
プレチジオーネ ソチエタ ベル アッチオーニ	
合計	9,943

ロ．関係会社出資金

会社名	金額(百万円)
成都天興山田車用部品有限公司	1,535
山田車用部品研究開発(成都)有限公司	348
成都正田車用部品有限公司	74
合計	1,958

流動負債

イ．支払手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)ホンダトレーディング	517
(株)アーレスティ	321
NOK(株)	87
協和工業(株)	70
日本精工(株)	69
その他	302
合計	1,369

期日別内訳

期日	金額(百万円)
2013年 4 月	397
5 月	340
6 月	314
7 月	317
合計	1,369

ロ．買掛金

相手先	金額(百万円)
本田技研工業(株)	918
(株)正田製作所	407
(株)平井	280
群馬合金(株)	227
三昌商事(株)	179
その他	3,206
合計	5,220

ハ．短期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)群馬銀行	1,100
(株)三菱東京ＵＦＪ銀行	800
(株)商工組合中央金庫	600
その他	600
合計	3,100

二．１年内返済予定の長期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)群馬銀行	965
(株)三菱東京ＵＦＪ銀行	790
(株)商工組合中央金庫	295
(株)三井住友銀行	170
(株)みずほ銀行	145
その他	60
合計	2,425

ホ．未払金

相手先	金額(百万円)
富士重工業(株)	522
三菱商事テクノス(株)	185
岩瀬産業(株)	129
ヤマダ ノースアメリカ インコーポレーテッド	128
桐生小型運送(株)	67
その他	1,156
合計	2,190

ヘ．設備関係支払手形

相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
清水建設(株)	911
群馬工機(株)	168
関電工(株)	49
(株)マエキ	22
(株)田尻	20
その他	150
合計	1,324

期日別内訳

期日	金額(百万円)
2013年 4 月	116
5 月	970
6 月	149
7 月	87
合計	1,324

固定負債

イ．長期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)群馬銀行	1,350
(株)三菱東京ＵＦＪ銀行	1,330
(株)商工組合中央金庫	330
(株)三井住友銀行	250
(株)みずほ銀行	112
その他	15
合計	3,387

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎決算期日の翌日から3ヶ月以内
基準日	3月31日
株券の種類	10,000株券、1,000株券、500株券、100株券、100株券未満端数表示の株券
剰余金の配当の基準日	9月30日及び3月31日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	無料
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし
株式の譲渡制限	当会社の株式を譲渡するには、取締役会の承認を受けなければならない。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から本有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度(第33期)(自 2011年 4 月 1 日 至 2012年 3 月31日)2012年 6 月25日関東財務局長に提出

(2) 半期報告書

(第34期中)(自 2012年 4 月 1 日 至 2012年 9 月30日)2012年12月27日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2013年 6 月19日

株式会社山田製作所

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 山本 禎良 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 海野 隆善 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社山田製作所の2012年4月1日から2013年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社山田製作所及び連結子会社の2013年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計方針の変更に記載されている通り、会社は有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法を当連結会計年度より変更している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- （注）1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2．連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2013年 6 月19日

株式会社山田製作所

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 禎良 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 海野 隆善 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社山田製作所の2012年4月1日から2013年3月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社山田製作所の2013年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計方針の変更に記載されている通り、会社は有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法を当事業年度より変更している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2．財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。